

令和 6 年度

一宮市公営企業会計決算審査意見書

一宮市公営企業会計資金不足比率審査意見書

( 病 院 事 業 )

一 宮 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 消費税及び地方消費税は、本文中の予算執行状況及び審査資料中の予算決算対照表、決算両年度比較表においては税込みの額、その他においては税抜きの額で表示した。
- 2 比率は、小数点第2位で四捨五入してあるので、端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 文中及び各表中の符号の用法は次のとおりである。
  - 「0.0」…… 算出により零となるもの、又は該当数値はあるが単位未満のもの
  - 「－」……算出不能なもの、又は該当数値がないもの
  - 「△」……負数
  - 「皆増」……前年度に数値がなく、全額増加したもの
  - 「皆減」……当年度に数値がなく、全額減少したもの

# 目 次

ページ

## 令和6年度一宮市病院事業会計決算審査意見

第1	審査の対象	1
第2	審査の方法等	1
第3	審査の結果	3
	概 要	3
1	業務状況	3
2	予算執行状況	9
3	経営状況	13
4	財政状態	24
	む す び	35

## 令和6年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

第1	審査の対象	37
第2	審査の方法等	37
第3	審査の結果	37

## 病院事業会計決算審査資料

	予算決算対照表	40
	決算両年度比較表	42
	比較損益計算書	44
	収益的支出科目別及び経費別両年度比較表	50
	比較貸借対照表	56
	比較財務分析表	62



# 一宮市病院事業会計決算審査意見



2025（令和7）年8月12日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 長谷川 伸 二

一宮市監査委員 丹 羽 達

一宮市監査委員 岡 本 将 嗣

一宮市監査委員 高 木 宏 昌

令和6年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）  
決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和6年度一宮市病院事業会計  
決算及び決算附属書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。



# 令和6年度一宮市病院事業会計決算審査意見

地方公営企業法第30条第2項による決算審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

## 第1 審査の対象

令和6年度一宮市病院事業会計決算

## 第2 審査の方法等

### 1 主な着眼点

一会計年度における事務事業の決算に対し、計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかどうかの主眼を置いて審査した。

#### (1) 形式審査

- ア 決算書類は関係法令に定める様式に準じて作成されているか。
- イ 決算計数は総勘定元帳、関係補助簿等の計数と一致しているか。
- ウ 決算書類相互の関連計数は一致しているか。

#### (2) 実質審査

##### ア 共通的事項

- ・ 会計処理が適正に行われているか。
- ・ 正規の簿記の原則に従って正確な会計帳簿が作成されているか。
- ・ 会計処理の基準及び手続について継続して用い、みだりに変更していないか。
- ・ 財政状態及び経営成績に関する会計真実を決算書その他の会計に関する書類に適正かつ明瞭に表示しているか。
- ・ 財政に不利な影響を及ぼすおそれがある事態に備えて健全な会計処理が行われているか。
- ・ 一般会計等との負担区分は適切か。

##### イ 業務状況

- ・ 業務実績の前年度との比較分析

##### ウ 予算執行状況

- ・ 収益的収支及び資本的収支の予算執行状況が適正かつ効率的か。
- ・ 収入は適正に確保されているか。
- ・ 予算の繰越しは適正に行われているか。
- ・ 資本的収入が資本的支出に対して不足する額の補てん財源は妥当か。また、その表示は明瞭か。

- ・消費税及び地方消費税分は備考欄に内書きされているか。

#### エ 経営状況

- ・損益計算書は経営成績を適正に表示しているか。
- ・収益及び費用の前年度比較による増減事由の検証
- ・単位当たりの収支、各種の比率による事業の経済性の分析評価

#### オ 財政状態

- ・貸借対照表は年度末の財政状態を適正に表示しているか。
- ・貸借対照表の各勘定科目の前年度比較による増減事由の検証
- ・各種の比率による財政状態の分析
- ・キャッシュ・フロー計算書による活動区分ごとの資金の増減要因の分析

### 2 主な実施内容

審査に付された決算及び決算附属書類を基に、次の手続を実施した。

#### (1) 書類の審査

審査に付された決算及び決算附属書類と、総勘定元帳、関係補助簿、関連保管文書等との照合等を行った。

#### (2) 経営分析

年度間比較、財政指標の算出により当年度の経営状況を確認した。

#### (3) 説明の聴取

事業管理者、部長、次長及び担当課長等関係職員から説明を聴取した。

#### (4) 実地調査

必要な事項については実査又は立会を行った。

### 3 実施場所及び主な日程

	実施場所	日程
監査事務局による 実地調査 (貯蔵品の実地棚卸の 立会)	市民病院（病棟、薬剤 局、管理課） 木曾川市民病院（病 棟、薬剤局、業務課）	2025年3月31日
監査事務局による 書類調査	監査事務局	同年6月6日～ 同年7月10日
監査委員による本審査	市民病院及び木曾川市 民病院会議室	同年7月18日、同月22日

### 第3 審査の結果

以上のとおり審査した限りにおいて、決算その他関係書類が法令に適合し、かつその計数は正確であり、当年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

審査結果の概要及び意見は次のとおりである。

#### 概 要

##### 1 業務状況

当年度の一宮市病院事業会計の業務量及び前年度との増減状況は次のとおりである。

区 分	診療科数	患者 別	病床数	令和 6 年度		令和 5 年度		前年度 対 比	
				年間延数	一日平均	年間延数	一日平均		
市民病院	24	入 院	一 般	570	164,407	450	163,812	448	100.4
			結核・ 感染症	24	3,041	8	3,721	10	81.7
			計	594	167,448	459	167,533	458	99.9
		外 来	時間内		277,545	1,142	276,569	1,138	100.4
			時間外		19,638	54	20,723	57	94.8
			計		297,183		297,292		100.0
木曾川 市民病院	5	入 院	一 般	84	24,713	68	24,851	68	99.4
			療 養	46	15,935	44	15,941	44	100.0
			計	130	40,648	111	40,792	111	99.6
		外 来	時間内		33,440	138	33,780	139	99.0
			時間外		132	0	86	0	153.5
			計		33,572		33,866		99.1
計	入 院	724	208,096	570	208,325	569	99.9		
	外 来		330,755		331,158		99.9		
入院・外来患者数合計				538,851		539,483		99.9	

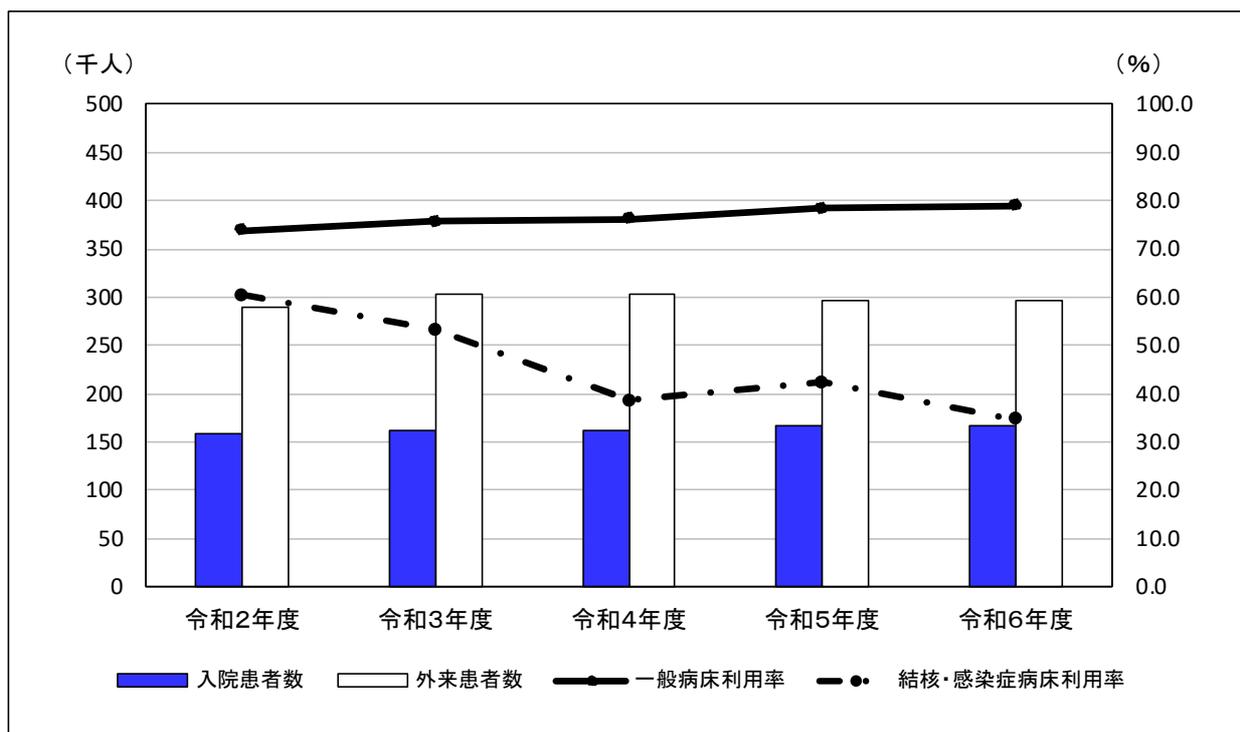
- (注) 1 病床数は稼働病床数である。  
 2 入院及び外来時間外取扱診療日数は、365日である。(前年度366日)  
 3 外来時間内診療日数は、243日である。(前年度243日)  
 4 患者数の一日平均については、四捨五入により計と一致しない場合がある。

表でみられるように、当年度の総利用患者数は、延 53 万 8,851 人で前年度に比べ 632 人 (0.1%) 減少している。そのうち入院患者数は、延 20 万 8,096 人で前年度に比べ 229 人 (0.1%) 減少し、外来患者数は、延 33 万 755 人で前年度に比べ 403 人 (0.1%) 減少している。

最近 5 か年の各病院の患者数及び稼働病床利用率の推移は、次のとおりである。

○市民病院

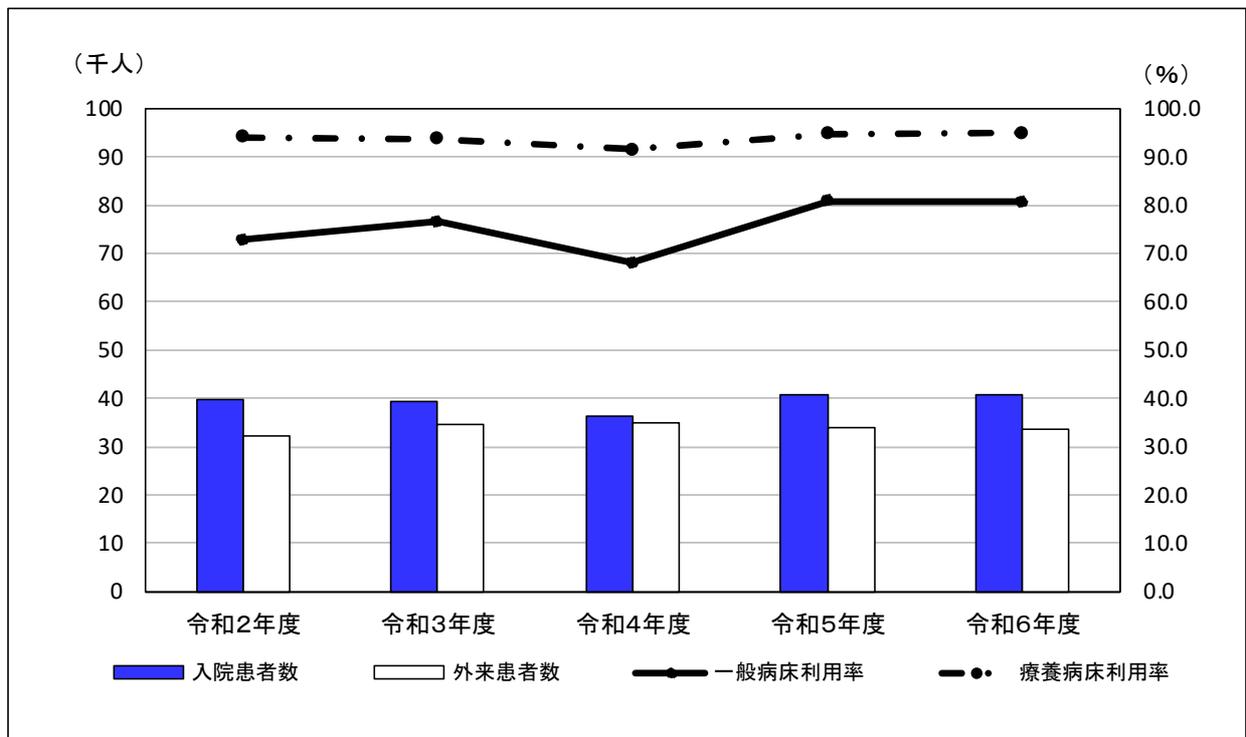
区 分		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
患 者 数	入 院	159,029 人	162,164 人	161,816 人	167,533 人	167,448 人
	外 来	289,204	303,561	302,875	297,292	297,183
稼働病床利用率	一 般	73.9 %	75.7 %	76.2 %	78.5 %	79.0 %
	結核・感染症	60.4	53.2	38.6	42.4	34.7



市民病院の稼働病床利用率 (  $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数 (稼働病床数)}} \times 100$  ) は、一般病床では、79.0% で前年度に比べ 0.5 ポイント上昇しており、結核・感染症病床では、34.7% で前年度に比べ 7.7 ポイント下降している。

○木曾川市民病院

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
患 者 数	入 院	39,715 人	39,318 人	36,399 人	40,792 人	40,648 人
	外 来	32,392	34,509	35,043	33,866	33,572
稼働病床 利 用 率	一 般	72.8 %	76.5 %	68.0 %	80.8 %	80.6 %
	療 養	94.1	93.8	91.5	94.7	94.9



木曾川市民病院の稼働病床利用率は、一般病床では、80.6%で前年度に比べ0.2ポイント下降しており、療養病床では、94.9%で前年度に比べ0.2ポイント上昇している。

また、診療科別患者数を前年度と比較すれば、次のとおりである。

診療科	令和6年度			令和5年度			増・減			
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
市民病	腎臓内科	5,102	9,123	14,225	5,393	9,707	15,100	△291	△584	△875
	血液内科	10,237	10,890	21,127	10,257	10,387	20,644	△20	503	483
	糖尿病・内分泌内科	2,745	11,888	14,633	2,327	11,751	14,078	418	137	555
	一般内科	—	1,314	1,314	—	1,359	1,359	—	△45	△45
	総合内科	1,804	1,305	3,109	1,248	1,332	2,580	556	△27	529
	循環器内科	25,865	20,252	46,117	25,547	20,695	46,242	318	△443	△125
	呼吸器内科	24,681	20,072	44,753	23,027	19,154	42,181	1,654	918	2,572
	消化器内科	14,370	15,324	29,694	15,270	14,783	30,053	△900	541	△359
	脳神経内科	8,551	10,472	19,023	7,807	10,351	18,158	744	121	865
	小児科	13,085	24,876	37,961	12,532	24,116	36,648	553	760	1,313
	外科	12,958	15,350	28,308	14,142	15,918	30,060	△1,184	△568	△1,752
	呼吸器外科	73	376	449	134	425	559	△61	△49	△110
	心臓血管外科	2,874	2,009	4,883	3,238	2,024	5,262	△364	△15	△379
	血管外科	2,942	2,748	5,690	3,287	2,665	5,952	△345	83	△262
	整形外科	11,980	19,075	31,055	12,621	19,042	31,663	△641	33	△608
	脳神経外科	6,953	5,842	12,795	6,903	5,866	12,769	50	△24	26
	皮膚科	2,433	29,741	32,174	3,063	29,735	32,798	△630	6	△624
	泌尿器科	5,653	11,889	17,542	5,374	11,996	17,370	279	△107	172
	産婦人科	6,992	14,302	21,294	8,079	15,243	23,322	△1,087	△941	△2,028
眼科	476	11,811	12,287	484	12,611	13,095	△8	△800	△808	
耳鼻いんこう科	4,952	15,875	20,827	3,894	14,473	18,367	1,058	1,402	2,460	
放射線治療科	43	8,000	8,043	31	8,171	8,202	12	△171	△159	
救急科	6	2,311	2,317	8	2,222	2,230	△2	89	87	
歯科口腔外科	1,755	12,612	14,367	1,773	12,457	14,230	△18	155	137	
緩和ケア	918	88	1,006	1,094	86	1,180	△176	2	△174	
時間外取扱患者	—	19,638	19,638	—	20,723	20,723	—	△1,085	△1,085	
計	167,448	297,183	464,631	167,533	297,292	464,825	△85	△109	△194	

診療科		令和6年度			令和5年度			増・減		
		入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
木曾川市民病院	内科	14,887	19,175	34,062	15,337	18,872	34,209	△450	303	△147
	外科	0	321	321	0	364	364	0	△43	△43
	整形外科	9,126	9,560	18,686	9,173	9,984	19,157	△47	△424	△471
	眼科	0	3,413	3,413	0	3,478	3,478	0	△65	△65
	リハビリテーション科	700	971	1,671	341	1,082	1,423	359	△111	248
	回復期リハビリテーション	15,935	—	15,935	15,941	—	15,941	△6	—	△6
	時間外取扱患者	—	132	132	—	86	86	—	46	46
	計	40,648	33,572	74,220	40,792	33,866	74,658	△144	△294	△438

患者数については、2病院とも入院患者数、外来患者数ともに前年度と比べ減少し、新型コロナウイルス感染症流行前の実績には届かなかった。

市民病院の入院患者数は、一般病床の入院患者数が増加したものの、結核・感染症病床の入院患者数の減少が上回った。診療科別に見てみると、呼吸器内科、耳鼻いんこう科等で増加したものの、外科、産婦人科等で減少した。外来患者数は、病院完結型医療から地域完結型医療への転換を進める一環として診療所等への患者の逆紹介を推進したことなどにより減少した。診療科別に見てみると、耳鼻いんこう科、呼吸器内科等で増加したものの、産婦人科、眼科等で減少した。また、時間外の取扱患者数も減少した。

木曾川市民病院の入院患者数は、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるために確保していた新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床へ戻したことなどによりリハビリテーション科で増加したものの、新型コロナウイルス感染症患者の受入れが減少したことにより内科で減少した。外来患者数は、整形外科で骨粗しょう症の治療で受診する患者が減少したことなどにより減少した。

年度末の職員数を前年度と比較してみると、次のとおりである。

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度	増 ・ 減
病院事業管理者		1	1	0
医 師		157	160	△ 3
内 訳	市 民 病 院	148	151	△ 3
	木 曾 川 市 民 病 院	9	9	0
看 護 師		715	697	18
内 訳	市 民 病 院	642	629	13
	木 曾 川 市 民 病 院	73	68	5
医 療 技 術 員		247	240	7
内 訳	市 民 病 院	194	188	6
	木 曾 川 市 民 病 院	53	52	1
事 務 員		62	61	1
内 訳	市 民 病 院	50	50	0
	木 曾 川 市 民 病 院	12	11	1
技 術 員（市民病院）		3	2	1
労 務 員（市民病院）		3	3	0
再 任 用 ・ 会 計 年 度 任 用 職 員		414	442	△ 28
内 訳	市 民 病 院	346	373	△ 27
	木 曾 川 市 民 病 院	68	69	△ 1
計		1,602	1,606	△ 4
内 訳	市 民 病 院	1,387	1,397	△ 10
	木 曾 川 市 民 病 院	215	209	6

(注) 1 職員数は各年度の3月31日付け退職者数を含めている。

2 病院事業管理者は、計の内訳のうち市民病院に含めている。

## 2 予算執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### <収入>

収益的収入は、予算現額 261 億 9,128 万 7,000 円に対し、決算額 260 億 1,367 万 6,018 円、執行率 99.3%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・減	執行率 (B) (A)	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
	円	円	円	%	円
医 業 収 益	24,110,443,000	23,936,328,605	△174,114,395	99.3	33,782,754
内					
市民病院	22,096,528,000	21,930,741,396	△165,786,604	99.2	29,580,293
内					
木曾川 市民病院	2,013,915,000	2,005,587,209	△8,327,791	99.6	4,202,461
医 業 外 収 益	2,028,489,000	2,017,133,414	△11,355,586	99.4	8,530,342
内					
市民病院	1,769,112,000	1,751,505,625	△17,606,375	99.0	8,076,627
内					
木曾川 市民病院	259,377,000	265,627,789	6,250,789	102.4	453,715
特 別 利 益	52,355,000	60,213,999	7,858,999	115.0	13,156
内					
市民病院	52,075,000	59,788,780	7,713,780	114.8	0
内					
木曾川 市民病院	280,000	425,219	145,219	151.9	13,156
合 計	26,191,287,000	26,013,676,018	△177,610,982	99.3	42,326,252
内					
市民病院	23,917,715,000	23,742,035,801	△175,679,199	99.3	37,656,920
内					
木曾川 市民病院	2,273,572,000	2,271,640,217	△1,931,783	99.9	4,669,332

決算額の主なものは、医業収益では、入院収益 159 億 235 万 9,809 円、外来収益 76 億 5,759 万 3,202 円、医業外収益では、負担金・交付金 13 億 1,634 万 9,548 円である。また、特別利益では、長期前受金戻入などのその他特別利益 5,348 万 466 円である。

#### <支出>

収益的支出は、予算現額 278 億 8,628 万 8,000 円に対し、決算額 272 億 7,288 万 739 円、執行率 97.8%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分		予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	不 用 額	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮払消費税及 び地方消費税
医 業 費 用		26,623,074,000 円	26,042,083,240 円	580,990,760 円	97.8 %	367,023,847 円
内 訳	市 民 病 院	24,076,450,000	23,575,954,483	500,495,517	97.9	309,861,384
	木 曾 川 市 民 病 院	2,546,624,000	2,466,128,757	80,495,243	96.8	57,162,463
医 業 外 費 用		1,209,610,445	1,179,144,395	30,466,050	97.5	6,812,339
内 訳	市 民 病 院	1,175,006,445	1,150,899,997	24,106,448	97.9	6,778,688
	木 曾 川 市 民 病 院	34,604,000	28,244,398	6,359,602	81.6	33,651
特 別 損 失		53,403,555	51,653,104	1,750,451	96.7	1,852,962
内 訳	市 民 病 院	51,051,555	51,051,555	0	100.0	1,848,372
	木 曾 川 市 民 病 院	2,352,000	601,549	1,750,451	25.6	4,590
予 備 費		200,000	0	200,000	0.0	0
内 訳	市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
	木 曾 川 市 民 病 院	100,000	0	100,000	0.0	0
合 計		27,886,288,000	27,272,880,739	613,407,261	97.8	375,689,148
内 訳	市 民 病 院	25,302,608,000	24,777,906,035	524,701,965	97.9	318,488,444
	木 曾 川 市 民 病 院	2,583,680,000	2,494,974,704	88,705,296	96.6	57,200,704

決算額の主なものは、医業費用では、給与費 128 億 58 万 5,893 円、材料費 73 億 6,068 万 3,817 円、経費 40 億 7,990 万 7,087 円、医業外費用では、雑損失 8 億 2,270 万 2,092 円、支払利息 1 億 7,896 万 8,213 円である。

## (2) 資本的収入及び支出

### < 収 入 >

資本的収入は、予算現額 7 億 3,077 万 6,000 円に対し、決算額 6 億 3,146 万 9,605 円、執行率 86.4%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予 算 現 額 (A)	決 算 額 (B)	予算現額に 比べ決算額 の増・減	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮受消費税及 び地方消費税
	円	円	円	%	円
企 業 債 ( 市 民 病 院 )	344,000,000	244,000,000	△100,000,000	70.9	0
負 担 金	385,255,000	385,253,435	△1,565	100.0	0
内 市 民 病 院	332,927,000	332,926,381	△619	100.0	0
内 木 曾 川 市 民 病 院	52,328,000	52,327,054	△946	100.0	0
寄 附 金 ( 市 民 病 院 )	1,000,000	1,448,000	448,000	144.8	0
補 助 金	521,000	592,000	71,000	113.6	0
内 市 民 病 院	521,000	521,000	0	100.0	0
内 木 曾 川 市 民 病 院	0	71,000	71,000	—	0
固 定 資 産 売 却 代 金 ( 木 曾 川 市 民 病 院 )	0	176,170	176,170	—	0
合 計	730,776,000	631,469,605	△99,306,395	86.4	0
内 市 民 病 院	678,448,000	578,895,381	△99,552,619	85.3	0
内 木 曾 川 市 民 病 院	52,328,000	52,574,224	246,224	100.5	0

企業債は、設備整備事業のための病院整備事業債2億4,400万円（市民病院）である。

負担金は、全額、一般会計から繰り入れたものであり、その内訳は、企業債元金償還金負担金3億7,150万3,435円（市民病院3億3,292万6,381円、木曾川市民病院3,857万7,054円）、建設改良負担金1,375万円（木曾川市民病院）である。

寄附金は、サークルリトラクターなどの器械及び備品の購入に対するもの144万8,000円（市民病院）である。

補助金は、保健衛生施設等設備整備費国庫補助金52万1,000円（市民病院）、マイナ保険証利用促進のための顔認証付きカードリーダー増設等に係る助成金7万1,000円（木曾川市民病院）である。

固定資産売却代金は、車両を購入した際の下取車の車両残存簿価17万6,170円（木曾川市民病院）である。

#### <支 出>

資本的支出は、予算現額20億6,408万6,000円に対し、決算額20億4,642万1,202円、執行率99.1%となっている。

その内訳は次のとおりである。

区 分	予算現額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額	不用額	執行率 $\frac{(B)}{(A)}$	決算額のうち 仮払消費税及び 地方消費税
	円	円	円	円	%	円
建設改良費	1,381,737,000	1,364,072,953	0	17,664,047	98.7	86,570,433
内 市民病院	1,293,593,000	1,276,939,364	0	16,653,636	98.7	79,941,206
内 木曾川 市民病院	88,144,000	87,133,589	0	1,010,411	98.9	6,629,227
企業債償還金	682,349,000	682,348,249	0	751	100.0	0
内 市民病院	622,215,000	622,214,827	0	173	100.0	0
内 木曾川 市民病院	60,134,000	60,133,422	0	578	100.0	0
合 計	2,064,086,000	2,046,421,202	0	17,664,798	99.1	86,570,433
内 市民病院	1,915,808,000	1,899,154,191	0	16,653,809	99.1	79,941,206
内 木曾川 市民病院	148,278,000	147,267,011	0	1,010,989	99.3	6,629,227

建設改良費 13 億 6,407 万 2,953 円の内訳は、改良費 3 億 1,708 万 2,206 円（市民病院 2 億 8,958 万 2,206 円、木曾川市民病院 2,750 万円）、資産購入費 6 億 8,133 万 6,179 円（市民病院 6 億 3,588 万 4,529 円、木曾川市民病院 4,545 万 1,650 円）、リース資産購入費 3 億 6,565 万 4,568 円（市民病院 3 億 5,147 万 2,629 円、木曾川市民病院 1,418 万 1,939 円）である。

決算額の主なものは、次のとおりである。

#### ア 市民病院

改良費の主なものは、空調設備中央監視装置更新工事 2 億 900 万円、南館 A 棟無停電電源装置更新工事 5,962 万円である。

資産購入費は、病院駐車場用地や、仮想化基盤サーバ、超音波画像診断装置等の器械及び備品などの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、放射線治療システム、磁気共鳴断層撮影装置などのリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

#### イ 木曾川市民病院

改良費は、全額、エレベーター改修工事 2,750 万円である。

資産購入費は、給食システム、多人数用透析液供給装置、健診システムなどの購入費用である。

リース資産購入費は、病院情報システム、FPD（一般 X 線撮影装置）のリース資産に係る当年度分のリース料の支払額（利息等相当額を除く）である。

なお、資本的支出総額 20 億 4,642 万 1,202 円に対し、資本的収入総額 6 億 3,146 万 9,605 円で、14 億 1,495 万 1,597 円収支不足となっているが、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 187 万 4,185 円、過年度分損益勘定留保資金 14 億 1,307 万 7,412 円により補てんされている。

### 3 経営状況

当年度の経営成績は、医業収益 239 億 245 万 5,521 円、医業外収益 20 億 930 万 6,377 円に対し、医業費用 256 億 7,496 万 9,063 円、医業外費用 15 億 2,015 万 9,748 円となった。ただし、決算額は、市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

この結果、医業損益では、17 億 7,251 万 3,542 円の医業損失（市民病院 13 億 6,493 万 1,996 円、木曾川市民病院 4 億 758 万 1,546 円）となり、前年度 11 億 7,453 万 7,184 円の医業損失から 5 億 9,797 万 6,358 円損失が増加した。

また、経常損益では、12 億 8,336 万 6,913 円の経常損失（市民病院 10 億 5,975 万 7,456 円、木曾川市民病院 2 億 2,360 万 9,457 円）となり、前年度 3 億 9,614 万 313 円の経常損失から 8 億 8,722 万 6,600 円損失が増加した。

最終損益では、経常損益に特別利益 6,020 万 843 円、特別損失 4,980 万 142 円を加減し、12 億 7,296 万 6,212 円の純損失（市民病院 10 億 4,917 万 1,859 円、木曾川市民病院 2 億 2,379 万 4,353 円）となり、前年度 3 億 9,563 万 4,461 円の純損失から 8 億 7,733 万 1,751 円損失が増加した。

最近 5 か年の経営成績は、次のとおりである。

区 分		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
病院事業収益		千円 24,942,324	千円 27,121,153	千円 27,011,421	千円 26,391,011	千円 25,971,963
内 訳	市民病院	22,673,946	24,629,280	24,387,550	24,044,024	23,705,082
	木曾川 市民病院	2,268,616	2,492,156	2,623,965	2,347,222	2,266,971
病院事業費用		25,207,347	25,823,207	26,426,607	26,786,646	27,244,929
内 訳	市民病院	22,781,485	23,435,618	23,986,198	24,369,948	24,754,254
	木曾川 市民病院	2,426,099	2,387,872	2,440,503	2,416,932	2,490,765
純利益・純損失		△265,023	1,297,946	584,814	△395,634	△1,272,966
内 訳	市民病院	△107,539	1,193,662	401,352	△325,924	△1,049,172
	木曾川 市民病院	△157,483	104,284	183,463	△69,710	△223,794

(注) 1 病院事業収益及び病院事業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の 2 病院の決算額の計と一致しない。

2 表示単位未満を四捨五入して端数処理を行っているので、計数が一致しない場合がある。

## (1) 収 益

### ア 市民病院

医業収益は、入院収益 144 億 5,760 万 1,415 円、外来収益 71 億 3,860 万 6,445 円を始め総額 219 億 116 万 1,103 円で、前年度に比べ 2 億 5,025 万 4,144 円（1.1%）減少している。

減少した主なものは、外来収益 2 億 3,359 万 3,928 円（3.2%）、入院収益 1,661 万 9,195 円（0.1%）である。外来収益が減少した要因は、高額な薬品の院外処方への切替えや薬価改定による薬品単価の下降により薬品に係る収入が減少したことや、診療単価の高い時間外の取扱患者数が減少したことである。入院収益が減少した要因は、診療単価の高い全身麻酔手術やカテーテル治療の件数が減少したことである。

医業外収益は、負担金・交付金 10 億 9,908 万 2,066 円、長期前受金戻入 3 億 4,866 万 770 円を始め総額 17 億 4,413 万 2,303 円で、前年度に比べ 1 億 4,601 万 5,658 円（7.7%）減少している。

減少した主なものは、補助金 2 億 2,308 万 928 円（74.3%）である。補助金が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金が皆減したことである。なお、増加した主なものは、その他医業外収益 1 億 311 万 2,152 円（98.9%）である。その他医業外収益が増加した要因は、医療事故賠償金に対する保険収入が高額であったことである。

特別利益は、5,978 万 8,780 円で前年度に比べ 5,732 万 7,634 円（2,329.3%）増加している。なお、その他特別利益には、長期前受金戻入 5,096 万 466 円が計上されている。これは、地方公営企業会計の会計基準により、企業債の元金償還金に係る一般会計負担金の収益化額は、当年度の長期前受金のうち企業債償還に係る一般会計等繰入金の総現在高が限度とされているため、過年度に収益化できなかった額が累積していたが、元金償還金が増加したことや、減価償却費が減少したことにより、過年度分の収益化が可能となったものである。

### イ 木曾川市民病院

医業収益は、入院収益 14 億 4,269 万 5,324 円、外来収益 5 億 1,710 万 8,201 円を始め総額 20 億 138 万 4,748 円で、前年度に比べ 375 万 9,712 円（0.2%）増加している。

増加したものは、入院収益 1,069 万 7,403 円（0.7%）、その他医業収益 458 万 2,381 円（12.4%）である。入院収益が増加した要因は、診療報酬改定により 2024 年 6 月からベースアップ評価料を加算したことで、患者 1 人当たりの診療単価が上昇したことである。その他医業収益が増加した要因は、前年度下半期から新型コロナウイルス感染症専用病床を一般病床に戻したことにより特別室の利用者数が増加し、室料差額収益が増加したことである。なお、減少したものは、外来収益 1,152 万 72 円（2.2%）である。外来収益が減少した要因は、整形外科で骨粗しょう症用の注射薬の使用量などが減少したことである。

医業外収益は、負担金・交付金 2 億 1,726 万 7,482 円、長期前受金戻入 2,794 万 382 円を始め総額 2 億 6,517 万 4,074 円で、前年度に比べ 8,203 万 619 円（23.6%）減少している。

減少した主なものは、補助金 7,921 万 3,160 円（87.9%）である。補助金が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金が皆減したことである。

特別利益は、41 万 2,063 円で前年度に比べ 197 万 9,865 円（82.8%）減少している。

病院事業収益について、項目別に前年度と比較すれば次のとおりである。

区 分		令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前年度 対 比	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比		
医 業 収 益	入 院 収 益	円 15,900,296,739	% 61.2	円 15,906,218,531	% 60.3	% 100.0	
	内 訳	市 民 病 院	14,457,601,415	55.7	14,474,220,610	54.8	99.9
		木 曾 川 市 民 病 院	1,442,695,324	5.6	1,431,997,921	5.4	100.7
	外 来 収 益	7,655,624,316	29.5	7,900,768,996	29.9	96.9	
	内 訳	市 民 病 院	7,138,606,445	27.5	7,372,200,373	27.9	96.8
		木 曾 川 市 民 病 院	517,108,201	2.0	528,628,273	2.0	97.8
	そ の 他 医 業 収 益	346,534,466	1.3	341,818,146	1.3	101.4	
	内 訳	市 民 病 院	304,953,243	1.2	304,994,264	1.2	100.0
		木 曾 川 市 民 病 院	41,581,223	0.2	36,998,842	0.1	112.4
	計	23,902,455,521	92.0	24,148,805,673	91.5	99.0	
	内 訳	市 民 病 院	21,901,161,103	84.3	22,151,415,247	83.9	98.9
		木 曾 川 市 民 病 院	2,001,384,748	7.7	1,997,625,036	7.6	100.2
	医 業 外 収 益	受 取 利 息	2,411,388	0.0	226,456	0.0	1,064.8
		内 訳	市 民 病 院	1,918,260	0.0	164,704	0.0
木 曾 川 市 民 病 院			493,128	0.0	61,752	0.0	798.6
補 助 金		87,886,728	0.3	390,180,816	1.5	22.5	
内 訳		市 民 病 院	77,021,888	0.3	300,102,816	1.1	25.7
		木 曾 川 市 民 病 院	10,864,840	0.0	90,078,000	0.3	12.1
他 会 計 繰 入 金 (木曾川市民病院)		565,000	0.0	—	—	—	
負 担 金 ・ 交 付 金		1,316,349,548	5.1	1,345,524,719	5.1	97.8	
内 訳		市 民 病 院	1,099,082,066	4.2	1,125,761,315	4.3	97.6
		木 曾 川 市 民 病 院	217,267,482	0.8	219,763,404	0.8	98.9
患 者 外 給 食 収 益 (市民病院)	942,750	0.0	1,055,925	0.0	89.3		
保 育 収 益 (市民病院)	8,452,012	0.0	7,590,632	0.0	111.3		

区 分		令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前年度 対 比	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比		
医 業 外 収 入 益 特 別 利 益	長期前受金戻入		376,601,152	1.5	378,232,833	1.4	99.6
	内 訳	市民病院	348,660,770	1.3	351,173,154	1.3	99.3
		木曾川 市民病院	27,940,382	0.1	27,059,679	0.1	103.3
	雑 収 益		1,050,718	0.0	60,596	0.0	1,734.0
	内 訳	市民病院	703,305	0.0	60,315	0.0	1,166.1
		木曾川 市民病院	347,413	0.0	281	0.0	123,634.5
	その他医業外収益		215,047,081	0.8	114,480,677	0.4	187.8
	内 訳	市民病院	207,351,252	0.8	104,239,100	0.4	198.9
		木曾川 市民病院	7,695,829	0.0	10,241,577	0.0	75.1
	計		2,009,306,377	7.7	2,237,352,654	8.5	89.8
	内 訳	市民病院	1,744,132,303	6.7	1,890,147,961	7.2	92.3
		木曾川 市民病院	265,174,074	1.0	347,204,693	1.3	76.4
	過 年 度 収 益		6,588,813	0.0	2,396,220	0.0	275.0
	内 訳	市民病院	6,308,314	0.0	4,292	0.0	146,978.4
木曾川 市民病院		280,499	0.0	2,391,928	0.0	11.7	
その他特別利益 (市民病院)		53,480,466	0.2	2,456,854	0.0	2,176.8	
固定資産売却益 (木曾川市民病院)		131,564	0.0	—	—	—	
計		60,200,843	0.2	4,853,074	0.0	1,240.5	
内 訳	市民病院	59,788,780	0.2	2,461,146	0.0	2,429.3	
	木曾川 市民病院	412,063	0.0	2,391,928	0.0	17.2	
合 計		25,971,962,741	100.0	26,391,011,401	100.0	98.4	
内 訳	市民病院	23,705,082,186	91.3	24,044,024,354	91.1	98.6	
	木曾川 市民病院	2,266,970,885	8.7	2,347,221,657	8.9	96.6	

(注) 1 医業収益の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので内訳の2病院の決算額と一致しない。

2 内部取引として医業収益から相殺された額は、令和5年度が234,610円、令和6年度が90,330円である。

## (2) 費用

### ア 市民病院

医業費用は、232億6,609万3,099円で前年度に比べ2億7,641万6,365円(1.2%)増加している。

増加した主なものは、給与費5億6,364万2,364円(5.3%)である。給与費が増加した要因は、人事院勧告に基づき給料等が増加したことである。なお、減少した主なものは、材料費2億4,948万733円(3.4%)である。材料費が減少した要因は、抗がん剤などの高額な薬品や循環器領域、心臓・血管外科領域の高額な診療材料の使用量が減少したことである。

医業外費用は、14億3,895万7,763円で前年度に比べ6,020万7,452円(4.4%)増加している。

増加した主なものは、雑損失8,643万5,450円(8.3%)、保育費5,602万3,853円(1,012.0%)である。雑損失が増加した要因は、医療事故賠償金等について高額な事例があったことである。保育費が増加した要因は、前年度は病院直営で行っていた保育所運営業務を当年度は委託したことにより運営委託料が皆増したことである。なお、減少した主なものは、長期前払消費税償却7,174万2,782円(46.5%)である。

特別損失は、4,920万3,183円で前年度に比べ4,768万1,766円(3,134.0%)増加している。

増加した主なものは、その他特別損失4,653万8,077円(皆増)である。その他特別損失が増加した要因は、器械及び備品において現物と台帳との突合調査により判明した不存在の器械及び備品に係る除却損(2,811万3,616円)や医師公舎解体工事費(1,668万4,449円)が皆増したことである。

### イ 木曾川市民病院

医業費用は、24億896万6,294円で前年度に比べ7,506万5,561円(3.2%)増加している。

増加した主なものは、給与費6,553万4,504円(4.3%)である。給与費が増加した要因は、人事院勧告に基づき給料等が増加したことである。

医業外費用は、8,120万1,985円で前年度に比べ99万6,513円(1.2%)増加している。

増加したものは、雑損失242万7,366円(3.6%)である。なお、減少した主なものは、支払利息106万9,176円(13.4%)である。

特別損失は、59万6,959円で前年度に比べ222万8,846円(78.9%)減少している。

病院事業費用について、項目別に前年度と比較すれば次のとおりである。

区 分		令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前年度 対 比	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比		
医 業 費 用	給 与 費	円 12,792,255,413	% 47.0	円 12,163,078,545	% 45.4	% 105.2	
	内 訳	市 民 病 院	11,204,403,696	41.1	10,640,761,332	39.7	105.3
		木 曾 川 市 民 病 院	1,587,851,717	5.8	1,522,317,213	5.7	104.3
	材 料 費	7,348,604,203	27.0	7,609,645,616	28.4	96.6	
	内 訳	市 民 病 院	7,103,165,488	26.1	7,352,646,221	27.4	96.6
		木 曾 川 市 民 病 院	245,438,715	0.9	256,999,395	1.0	95.5
	経 費	3,738,767,340	13.7	3,534,857,025	13.2	105.8	
	内 訳	市 民 病 院	3,272,169,659	12.0	3,104,935,612	11.6	105.4
		木 曾 川 市 民 病 院	466,688,011	1.7	430,156,023	1.6	108.5
	減 価 償 却 費	1,675,107,904	6.1	1,905,418,486	7.1	87.9	
	内 訳	市 民 病 院	1,574,022,228	5.8	1,789,425,070	6.7	88.0
		木 曾 川 市 民 病 院	101,085,676	0.4	115,993,416	0.4	87.1
	資 産 減 耗 費	42,048,814	0.2	39,762,119	0.1	105.8	
	内 訳	市 民 病 院	39,673,127	0.1	36,198,703	0.1	109.6
		木 曾 川 市 民 病 院	2,375,687	0.0	3,563,416	0.0	66.7
	研 究 研 修 費	78,185,389	0.3	70,581,066	0.3	110.8	
	内 訳	市 民 病 院	72,658,901	0.3	65,709,796	0.2	110.6
		木 曾 川 市 民 病 院	5,526,488	0.0	4,871,270	0.0	113.5
	計	25,674,969,063	94.2	25,323,342,857	94.5	101.4	
内 訳	市 民 病 院	23,266,093,099	85.4	22,989,676,734	85.8	101.2	
	木 曾 川 市 民 病 院	2,408,966,294	8.8	2,333,900,733	8.7	103.2	

区 分		令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前年度 対 比	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比		
医 業 外 費 用	支 払 利 息		178,412,457	0.7	189,987,350	0.7	93.9
	内 訳	市 民 病 院	171,505,023	0.6	182,010,740	0.7	94.2
		木 曾 川 市 民 病 院	6,907,434	0.0	7,976,610	0.0	86.6
	患 者 外 給 食 費 ( 市 民 病 院 )		628,703	0.0	632,055	0.0	99.5
	保 育 費 ( 市 民 病 院 )		61,560,052	0.2	5,536,199	0.0	1,112.0
	長 期 前 払 消 費 税 償 却		87,804,770	0.3	159,909,229	0.6	54.9
	内 訳	市 民 病 院	82,581,298	0.3	154,324,080	0.6	53.5
		木 曾 川 市 民 病 院	5,223,472	0.0	5,585,149	0.0	93.5
	雑 損 失		1,191,753,766	4.4	1,102,890,950	4.1	108.1
	内 訳	市 民 病 院	1,122,682,687	4.1	1,036,247,237	3.9	108.3
		木 曾 川 市 民 病 院	69,071,079	0.3	66,643,713	0.2	103.6
	計		1,520,159,748	5.6	1,458,955,783	5.4	104.2
	内 訳	市 民 病 院	1,438,957,763	5.3	1,378,750,311	5.1	104.4
		木 曾 川 市 民 病 院	81,201,985	0.3	80,205,472	0.3	101.2
特 別 損 失	過 年 度 損 失		2,856,925	0.0	4,347,222	0.0	65.7
	内 訳	市 民 病 院	2,665,106	0.0	1,521,417	0.0	175.2
		木 曾 川 市 民 病 院	191,819	0.0	2,825,805	0.0	6.8
	そ の 他 特 別 損 失		46,943,217	0.2	—	—	—
	内 訳	市 民 病 院	46,538,077	0.2	—	—	—
		木 曾 川 市 民 病 院	405,140	0.0	—	—	—
	計		49,800,142	0.2	4,347,222	0.0	1,145.6
内 訳	市 民 病 院	49,203,183	0.2	1,521,417	0.0	3,234.0	
	木 曾 川 市 民 病 院	596,959	0.0	2,825,805	0.0	21.1	
合 計		27,244,928,953	100.0	26,786,645,862	100.0	101.7	
内 訳	市 民 病 院	24,754,254,045	90.9	24,369,948,462	91.0	101.6	
	木 曾 川 市 民 病 院	2,490,765,238	9.1	2,416,932,010	9.0	103.1	

(注) 1 医業費用の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので内訳の2病院の決算額と一致しない。

2 内部取引として医業費用から相殺された額は、令和5年度が234,610円、令和6年度が90,330円である。

(3) 一般会計からの繰入金

一般会計が繰出しを行う場合の基準となる基本的な考え方を総務省が定めた「地方公営企業繰出金の基準」に基づき一般会計から繰り入れた金額は次のとおりであり、収益的収入に係る繰入金は、全額医業外収益に計上されている。

区 分		令和 6 年度	令和 5 年度	前年度対比
市 民 病 院	収益的収入	円	円	%
	企業債利息償還金負担金	87,255,683	92,681,123	94.1
	医師等研究研修経費負担金	23,701,405	20,190,678	117.4
	基礎年金拠出金公的負担経費負担金	189,317,672	199,668,154	94.8
	救急医療確保経費負担金	263,689,451	257,433,575	102.4
	高度医療経費負担金	94,050,584	89,697,594	104.9
	特殊医療経費負担金	40,580,337	40,081,220	101.2
	周産期医療経費負担金	108,974,588	108,110,216	100.8
	小児医療経費負担金	6,963,120	6,958,560	100.1
	保健衛生行政事務経費負担金	57,090,055	55,741,137	102.4
	共済追加費用負担経費負担金	37,699,200	40,230,840	93.7
	リハビリテーション医療経費負担金	59,947,239	60,100,535	99.7
	結核医療経費負担金	66,152,526	67,067,089	98.6
	感染症医療経費負担金	0	0	—
	児童手当経費負担金	41,846,000	33,376,000	125.4
	院内保育所運営経費負担金	19,383,756	48,468,189	40.0
	小 計	1,096,651,616	1,119,804,910	97.9
	資本的収入			
	企業債元金償還金負担金	332,926,381	285,547,525	116.6
合 計	1,429,577,997	1,405,352,435	101.7	
木 曾 川 市 民 病 院	収益的収入			
	企業債利息償還金負担金	4,609,467	5,306,264	86.9
	医師等研究研修経費負担金	2,591,437	2,840,076	91.2
	基礎年金拠出金公的負担経費負担金	27,275,786	28,514,170	95.7
	救急医療確保経費負担金	32,834,545	36,335,023	90.4
	高度医療経費負担金	4,937,449	5,807,373	85.0
	特殊医療経費負担金	32,901,679	32,468,227	101.3
	保健衛生行政事務経費負担金	33,740,437	33,029,600	102.2
	共済追加費用負担経費負担金	5,086,128	5,367,072	94.8
	リハビリテーション医療経費負担金	64,664,454	62,424,709	103.6
	児童手当経費負担金	8,331,000	6,466,000	128.8
	小 計	216,972,382	218,558,514	99.3
	資本的収入			
	建設改良負担金	13,750,000	0	—
企業債元金償還金負担金	38,577,054	37,880,256	101.8	
合 計	269,299,436	256,438,770	105.0	
総 計	1,698,877,433	1,661,791,205	102.2	

このほか、市民病院では、「地方公営企業繰出金の基準」によらない一般会計からの繰入金として、デジタル田園都市国家構想交付金負担金 243 万 450 円が収益的収入の医業外収益に計上されている。

#### (4) 経営分析

経営の健全性、効率性について示す主な指標は、次のとおりである。

なお、病院事業全体の比率の算出に当たっては、市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去された数値を用いた。

##### ア 経常収支比率

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
病院事業全体	% 98.9	% 105.0	% 102.2	% 98.5	% 95.3
市民病院	99.5	105.0	101.7	98.7	95.7
木曾川市民病院	93.5	104.4	107.6	97.1	91.0

(注)算式

$$\text{経常収支比率(\%)} = \text{経常収益} / \text{経常費用} \times 100$$

経常収支比率は、医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標である。公立病院経営強化ガイドラインでは、公立病院が地域の医療提供体制の中で、適切に役割・機能を果たし良質な医療を提供していくためには、一般会計から所定の繰出しが行われれば「経常黒字」となる水準を早期に達成し、これを維持することにより持続可能な経営を実現する必要があるとされている。

当年度における経常収支比率は、市民病院では、高額な薬品の院外処方への切替え等による外来収益の減少や、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金の皆減などにより経常収益が減少し、人事院勧告に基づく給与費の増加などにより経常費用が増加したため、前年度に比べ 3.0 ポイント悪化し 95.7%となった。

木曾川市民病院では、新型コロナウイルス感染症関連の県補助金の皆減などにより経常収益が減少し、人事院勧告に基づく給与費の増加などにより経常費用が増加したため、前年度に比べ 6.1 ポイント悪化し 91.0%となった。

イ 医業収支比率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病院事業全体	% 89.5	% 94.2	% 93.4	% 95.4	% 93.1
市民病院	90.1	94.9	94.3	96.4	94.1
木曾川市民病院	84.7	87.3	84.8	85.6	83.1

(注)算式

$$\text{医業収支比率(\%)} = \text{医業収益} / \text{医業費用} \times 100$$

医業収支比率は、病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標で、医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、医業活動における経営状況を判断するものである。

当年度における医業収支比率は、市民病院では、前述したとおり外来収益などの減少により医業収益が減少し、給与費の増加などにより医業費用が増加したため、前年度に比べ2.3ポイント悪化し94.1%となった。

木曾川市民病院では、入院収益、その他医業収益の増加により医業収益が増加したものの、前述したとおり給与費の増加などによる医業費用の増加が上回ったため、前年度に比べ2.5ポイント悪化し83.1%となった。

ウ 患者1人1日当たり収益

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	病院事業全体	円 70,514	円 73,032	円 76,023	円 76,353	円 76,408
	市民病院	79,355	82,094	84,484	86,396	86,341
	木曾川市民病院	35,111	35,655	38,411	35,105	35,492
外来	病院事業全体	21,551	22,538	23,024	23,858	23,146
	市民病院	22,091	23,321	23,877	24,798	24,021
	木曾川市民病院	16,739	15,652	15,649	15,609	15,403

(注)算式

$$\text{入院患者1人1日当たり収益(円)} = \text{入院収益} / \text{年延入院患者数}$$

$$\text{外来患者1人1日当たり収益(円)} = \text{外来収益} / \text{年延外来患者数}$$

この指標は、入院、外来患者への診療及び療養に係る収益について、入院、外来患者1人1日当たりの平均単価を示すもので、経年比較で減少傾向にある場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善に向けて検討することが求められる。

入院患者1人1日当たり収益は、市民病院では、診療単価の高い全身麻酔手術やカテーテル治療の件数が減少したことにより前年度に比べ55円減少し8万6,341円となった。

木曾川市民病院では、2024年6月から診療報酬改定によるベースアップ評価料が加算されたことにより前年度に比べ387円増加し3万5,492円となった。

外来患者1人1日当たり収益は、市民病院では、高額な薬品の院外処方への切替えや薬価改定による薬品単価の下降により薬品に係る収入が減少したことや、診療単価の高い時間外の取扱患者数が減少したことにより前年度に比べ777円減少し2万4,021円となった。

木曾川市民病院では、整形外科で注射薬の使用量が減少したことにより前年度に比べ206円減少し1万5,403円となり、直近5か年において減少傾向にある。

#### エ 職員1人当たり医業収益

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	千円	千円	千円	千円	千円
病院事業全体	13,663	14,622	14,933	15,037	14,920
市民病院	14,336	15,390	15,772	15,856	15,790
木曾川市民病院	9,382	9,626	9,539	9,558	9,309

(注)算式

$$\text{職員1人当たり医業収益(千円)} = \text{医業収益} / \text{職員数}$$

職員1人当たり医業収益は、職員1人当たりの生産性を病院の主たる収入である医業収益の面から見た指標で、大きいほど良いとされている。

当年度の職員1人当たり医業収益は、市民病院では、前年度に比べ66千円減の15,790千円、木曾川市民病院では、249千円減の9,309千円となった。

#### 4 財政状態

当年度の資産総額は、297 億 1,846 万 5,959 円で前年度に比べ 16 億 2,312 万 8,432 円(5.2%)減少している。

資産の構成比率は、固定資産 63.2%、流動資産 36.8%である。

次に、負債及び資本の総額は、297 億 1,846 万 5,959 円で、その構成比率は、固定負債 53.9%、流動負債 12.5%、繰延収益 2.5%、資本金 64.6%、剰余金マイナス 33.5%となっている。

##### (1) 固定資産

固定資産総額は、187 億 9,519 万 9,010 円で前年度に比べ 6 億 761 万 6,840 円 (3.1%) 減少している。

固定資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	増 ・ 減	前 年 度 対 比
	円	円	円	%
有 形 固 定 資 産	18,510,698,977	19,145,382,935	△634,683,958	96.7
内 訳				
市 民 病 院	17,544,656,027	18,142,105,112	△597,449,085	96.7
木 曾 川 市 民 病 院	966,042,950	1,003,277,823	△37,234,873	96.3
無 形 固 定 資 産	2,219,027	2,219,027	0	100.0
内 訳				
市 民 病 院	1,906,200	1,906,200	0	100.0
木 曾 川 市 民 病 院	312,827	312,827	0	100.0
投 資 そ の 他 の 資 産	282,281,006	255,213,888	27,067,118	110.6
内 訳				
市 民 病 院	265,958,397	241,603,677	24,354,720	110.1
木 曾 川 市 民 病 院	16,322,609	13,610,211	2,712,398	119.9
合 計	18,795,199,010	19,402,815,850	△607,616,840	96.9
内 訳				
市 民 病 院	17,812,520,624	18,385,614,989	△573,094,365	96.9
木 曾 川 市 民 病 院	982,678,386	1,017,200,861	△34,522,475	96.6

市民病院の固定資産総額は、178 億 1,252 万 624 円で前年度に比べ 5 億 7,309 万 4,365 円 (3.1%) 減少している。

有形固定資産では、器械及び備品などの増加があるものの、減価償却と器械及び備品などの除却により、全体として 5 億 9,744 万 9,085 円 (3.3%) 減少となっている。

投資その他の資産では、長期前払消費税などの増加により、2,435万4,720円（10.1%）増加している。

木曾川市民病院の固定資産総額は、9億8,267万8,386円で前年度に比べ3,452万2,475円（3.4%）減少している。

有形固定資産では、器械及び備品の増加があるものの、減価償却と器械及び備品の除却により、全体として3,723万4,873円（3.7%）減少となっている。

投資その他の資産では、貸倒懸念債権などの増加により、271万2,398円（19.9%）増加している。

(2) 流動資産

流動資産総額は、109億2,326万6,949円で前年度に比べ10億1,551万1,592円(8.5%)減少している。

流動資産の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令和6年度	令和5年度	増・減	前年度 対 比
		円	円	円	%
現金預金		6,357,819,995	7,400,049,205	△1,042,229,210	85.9
内 訳	市民病院	4,646,997,224	5,486,638,956	△839,641,732	84.7
	木曾川 市民病院	1,710,822,771	1,913,410,249	△202,587,478	89.4
未収金		4,309,983,096	4,329,900,260	△19,917,164	99.5
内 訳	市民病院	3,950,715,637	4,008,482,573	△57,766,936	98.6
	木曾川 市民病院	361,835,022	323,954,162	37,880,860	111.7
貸倒引当金		△1,979,456	△17,922,494	15,943,038	11.0
内 訳	市民病院	△1,843,921	△17,098,279	15,254,358	10.8
	木曾川 市民病院	△135,535	△824,215	688,680	16.4
貯蔵品		256,055,685	221,146,841	34,908,844	115.8
内 訳	市民病院	249,944,471	214,696,908	35,247,563	116.4
	木曾川 市民病院	6,111,214	6,449,933	△338,719	94.7
前払費用 (市民病院)		1,352,629	5,604,729	△4,252,100	24.1
前払金 (木曾川市民病院)		35,000	—	35,000	—
合 計		10,923,266,949	11,938,778,541	△1,015,511,592	91.5
内 訳	市民病院	8,847,166,040	9,698,324,887	△851,158,847	91.2
	木曾川 市民病院	2,078,668,472	2,242,990,129	△164,321,657	92.7

(注) 1 未収金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未収金から相殺消去された額は、令和5年度が2,536,475円、令和6年度が2,567,563円である。

ここで、前表の未収金及び貸倒引当金に固定資産の投資その他の資産に計上されている貸倒懸念債権（市民病院 4,068 万 3,205 円、木曾川市民病院 344 万 7,351 円）及び貸倒引当金（市民病院 2,898 万 1,170 円、木曾川市民病院 172 万 3,676 円）を加えると、それぞれ次のとおりとなる。なお、当年度は未収金及び貸倒引当金に係る計上方法を変更している。貸倒懸念債権は、患者負担分のうち貸倒引当金の算定にあたり定めた平均回収期間を超えたものとし、貸倒引当金については個別の回収可能性を勘案し、より実態に即した計上としている。

区 分		令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	増 ・ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
未 収 金		4,354,113,652	4,335,903,727	18,209,925	100.4
内 訳	市 民 病 院	3,991,398,842	4,013,957,567	△22,558,725	99.4
	木 曾 川 市 民 病 院	365,282,373	324,482,635	40,799,738	112.6
貸 倒 引 当 金		△32,684,302	△20,924,228	△11,760,074	156.2
内 訳	市 民 病 院	△30,825,091	△19,835,776	△10,989,315	155.4
	木 曾 川 市 民 病 院	△1,859,211	△1,088,452	△770,759	170.8

- (注) 1 未収金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。
- 2 内部取引として未収金から相殺消去された額は、令和5年度が2,536,475円、令和6年度が2,567,563円である。

未収金のうち主なものは、市民病院では入院収益 25 億 4,658 万 2,124 円、外来収益 11 億 776 万 3,797 円、負担金・交付金 1 億 8,931 万 7,672 円、木曾川市民病院では入院収益 2 億 4,781 万 3,935 円、外来収益 7,943 万 9,531 円である。

市民病院の未収金は、前年度に比べ 2,255 万 8,725 円 (0.6%) 減少している。減少した主なものは、外来収益 1,879 万 7,355 円 (1.7%)、国・県補助金 1,108 万 3,728 円 (17.4%) である。

木曾川市民病院の未収金は、前年度に比べ 4,079 万 9,738 円 (12.6%) 増加している。増加した主なものは、基礎年金拠出に係る公的負担に要する経費負担金 2,727 万 5,786 円 (皆増)、入院収益 476 万 1,290 円 (2.0%)、国・県補助金 430 万 5,000 円 (皆増) である。

未収金の大半を占める入院収益、外来収益等は、保険請求分と患者負担分である。そのうち保険請求分については、年度末分が通常次年度当初に収入される性質のもので、企業会計上では未収金として整理するが、本質的には滞納分にはあたらない。そこで、5月末現在の医業未収金を前年同月と比較してみると、市民病院では増加し、木曾川市民病院では減少している。そのうち現年度（決算年度）分についても市民病院では増加し、木曾川市民病院では減少している。過年度分については2病院とも増加している。

未収金の中で注視すべきものは患者負担分であり、その対策には2病院とも努力されているところである。未収金は経営を悪化させる要因となりかねないため、引き続き病院全体として

未収金の発生防止に取り組むとともに発生後には効率的、効果的な対策により早期収納に努められるよう要望する。

また、貸倒引当金は、金銭債権の貸倒れに備えて将来の回収不納見込額が計上されたものであり、不納欠損処理に伴い貸倒引当金の取崩しが行われる。

そこで、不納欠損額をみると、市民病院の不納欠損額は931万6,331円（貸倒引当金取崩額931万6,331円）で前年度に比べ447万9,496円（92.6%）増加しており、木曾川市民病院の不納欠損額（貸倒引当金取崩額）は皆減している。不納欠損処分は、今後とも慎重かつ適正な取扱いを望むものである。

なお、貯蔵品について調査したところ、その受払い及び管理は、良好に行われていた。

### （3）固定負債

固定負債総額は、160億1,339万8,568円で前年度に比べ4億3,313万5,480円（2.6%）減少している。

固定負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分	令和6年度	令和5年度	増・減	前年度対比
	円	円	円	%
企 業 債	10,055,662,733	10,521,877,901	△466,215,168	95.6
内 市 民 病 院	9,795,567,695	10,200,582,197	△405,014,502	96.0
内 木 曾 川 市 民 病 院	260,095,038	321,295,704	△61,200,666	81.0
リ ー ス 債 務	537,729,627	570,350,254	△32,620,627	94.3
内 市 民 病 院	537,729,627	567,401,381	△29,671,754	94.8
内 木 曾 川 市 民 病 院	—	2,948,873	△2,948,873	—
退 職 給 付 引 当 金	5,420,006,208	5,354,305,893	65,700,315	101.2
内 市 民 病 院	4,581,778,646	4,526,927,039	54,851,607	101.2
内 木 曾 川 市 民 病 院	838,227,562	827,378,854	10,848,708	101.3
合 計	16,013,398,568	16,446,534,048	△433,135,480	97.4
内 市 民 病 院	14,915,075,968	15,294,910,617	△379,834,649	97.5
内 木 曾 川 市 民 病 院	1,098,322,600	1,151,623,431	△53,300,831	95.4

市民病院の固定負債総額は、149億1,507万5,968円で前年度に比べ3億7,983万4,649円（2.5%）減少している。

木曾川市民病院の固定負債総額は、10億9,832万2,600円で前年度に比べ5,330万831円（4.6%）減少している。

(4) 流動負債

流動負債総額は、37億2,529万6,989円で前年度に比べ1億2,273万9,243円(3.4%)増加している。

流動負債の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令和6年度	令和5年度	増・減	前年度対比
		円	円	円	%
企業債		710,215,168	682,348,249	27,866,919	104.1
内訳	市民病院	649,014,502	622,214,827	26,799,675	104.3
	木曾川市民病院	61,200,666	60,133,422	1,067,244	101.8
リース債務		239,189,017	354,972,958	△115,783,941	67.4
内訳	市民病院	236,240,144	340,791,019	△104,550,875	69.3
	木曾川市民病院	2,948,873	14,181,939	△11,233,066	20.8
未払金		1,834,724,403	1,677,843,811	156,880,592	109.4
内訳	市民病院	1,656,410,816	1,559,672,268	96,738,548	106.2
	木曾川市民病院	180,881,150	120,708,018	60,173,132	149.9
預り金		92,550,975	92,271,929	279,046	100.3
内訳	市民病院	81,289,791	82,429,561	△1,139,770	98.6
	木曾川市民病院	11,261,184	9,842,368	1,418,816	114.4
賞与引当金		718,589,525	673,991,346	44,598,179	106.6
内訳	市民病院	623,849,560	581,588,478	42,261,082	107.3
	木曾川市民病院	94,739,965	92,402,868	2,337,097	102.5
法定福利費引当金		130,027,901	121,129,453	8,898,448	107.3
内訳	市民病院	113,400,488	104,532,197	8,868,291	108.5
	木曾川市民病院	16,627,413	16,597,256	30,157	100.2
合 計		3,725,296,989	3,602,557,746	122,739,243	103.4
内訳	市民病院	3,360,205,301	3,291,228,350	68,976,951	102.1
	木曾川市民病院	367,659,251	313,865,871	53,793,380	117.1

(注) 1 未払金の決算額は、病院事業会計の内部取引が相殺消去され、純計となっているので、内訳の2病院の決算額の計と一致しない。

2 内部取引として未払金から相殺消去された額は、令和5年度が2,536,475円、令和6年度が2,567,563円である。

市民病院の流動負債総額は、33億6,020万5,301円で前年度に比べ6,897万6,951円(2.1%)増加している。

市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では委託料などの経費4億1,761万8,270円、退職手当3億3,571万3,955円、手当などの給与費1億8,118万1,794円、医業外未払金では企業債利息761万9,406円、その他未払金では薬品・診療材料購入費6億3,102万8,749円、建設改良未払金では器械及び備品購入費3,422万6,310円である。

木曾川市民病院の流動負債総額は、3億6,765万9,251円で前年度に比べ5,379万3,380円(17.1%)増加している。

木曾川市民病院の未払金のうち主なものは、医業未払金では、退職手当6,943万6,268円、委託料などの経費4,717万5,269円、医業外未払金では企業債利息17万9,406円、その他未払金では薬品・診療材料購入費673万2,576円、建設改良未払金では器械及び備品購入費1,763万9,160円である。

#### (5) 繰延収益

繰延収益は、償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金、一般会計負担金等を、長期前受金として負債に計上したうえで、減価償却見合い分を順次収益化するものである。

繰延収益総額は、7億5,370万7,642円で前年度に比べ3,976万5,983円(5.0%)減少している。

繰延収益の内訳を前年度と比較すれば、次のとおりである。

区 分		令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	増 ・ 減	前 年 度 対 比
		円	円	円	%
長 期 前 受 金		4,319,463,392	3,957,335,857	362,127,535	109.2
内 訳	市 民 病 院	3,811,842,455	3,502,112,974	309,729,481	108.8
	木 曾 川 市 民 病 院	507,620,937	455,222,883	52,398,054	111.5
収 益 化 累 計 額		△3,565,755,750	△3,163,862,232	△401,893,518	112.7
内 訳	市 民 病 院	△3,292,276,632	△2,918,323,496	△373,953,136	112.8
	木 曾 川 市 民 病 院	△273,479,118	△245,538,736	△27,940,382	111.4
合 計		753,707,642	793,473,625	△39,765,983	95.0
内 訳	市 民 病 院	519,565,823	583,789,478	△64,223,655	89.0
	木 曾 川 市 民 病 院	234,141,819	209,684,147	24,457,672	111.7

#### (6) 資本金

資本金総額は、191億8,834万8,623円で前年度と同額である。

(7) 剰 余 金

剰余金総額は、マイナス99億6,228万5,863円で前年度に比べ12億7,296万6,212円(14.6%)マイナス額が増加している。

剰余金の内訳及び当年度中の増減状況は、次のとおりである。

区 分	令 和 6 年 度	令 和 5 年 度	増 ・ 減 内 訳	
資 本 剰 余 金	円 39,083,874	円 39,083,874	円 0	
内 訳	市 民 病 院	30,043,874	30,043,874	0
	木 曾 川 市 民 病 院	9,040,000	9,040,000	0
利 益 剰 余 金	△10,001,369,737	△8,728,403,525	△1,272,966,212 (当年度純損失)	
内 訳	市 民 病 院	△7,566,934,125	△6,517,762,266	△1,049,171,859 (当年度純損失)
	木 曾 川 市 民 病 院	△2,434,435,612	△2,210,641,259	△223,794,353 (当年度純損失)
合 計	△9,962,285,863	△8,689,319,651	△1,272,966,212	
内 訳	市 民 病 院	△7,536,890,251	△6,487,718,392	△1,049,171,859
	木 曾 川 市 民 病 院	△2,425,395,612	△2,201,601,259	△223,794,353

市民病院当年度未処理欠損金75億6,693万4,125円及び木曾川市民病院当年度未処理欠損金24億3,443万5,612円は、欠損金処理計算書のとおり、全額翌年度へ繰り越される。

## (8) 財務分析

経営の健全性について示す主な指標は、次のとおりである。

なお、病院事業全体の比率の算出に当たっては、市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去された数値を用いた。

### ア 自己資本構成比率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病院事業全体	% 31.3	% 34.8	% 36.0	% 36.0	% 33.6
市民病院	29.4	33.0	33.8	33.8	31.4
木曽川市民病院	47.6	50.8	54.4	55.0	52.1

(注)算式

$$\text{自己資本構成比率 (\%)} = (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計} \times 100$$

自己資本構成比率は、総資本（負債・資本合計）のうち、どの程度が自己資本で賄われているかを示している。財務状態の長期的な安全性の見方として、その事業の資本構成が重要であり、この比率が高いほど負債（借入金）が少ないと判断されることが多く、経営の安全性は高いといえる。一般的に、公営企業は、施設の建設費を企業債によって調達していることが多いので、低くなる傾向にある。

当年度の自己資本構成比率は、市民病院では、前年度に比べ2.4ポイント悪化し31.4%、木曽川市民病院では、前年度に比べ2.9ポイント悪化し52.1%となり、2病院とも悪化傾向にある。

### イ 固定資産対長期資本比率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病院事業全体	% 81.8	% 75.7	% 71.9	% 69.9	% 72.3
市民病院	86.1	79.6	76.0	74.2	76.5
木曽川市民病院	44.0	40.2	37.1	34.5	36.5

(注)算式

$$\text{固定資産対長期資本比率 (\%)} = \text{固定資産} / (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}) \times 100$$

固定資産対長期資本比率は、固定資産が、どの程度返済期限のない自己資本（自己資本金、剰余金）や長期に活用可能な固定負債（長期借入金）によって調達されているかを示している。この比率は常に100%以下で、かつ、低いことが望ましい。100%を上回っている場合には、固定資産の一部が一時借入金等の流動負債によって調達されていることを示す。一般的に、最も

安全性を阻害するのは流動負債で固定資産を取得することで、この場合、この比率は著しく高くなり、不良債務発生の原因となる。

当年度の固定資産対長期資本比率は、市民病院では、前年度に比べ2.3ポイント悪化し76.5%、木曾川市民病院では、前年度に比べ2.0ポイント悪化し36.5%となり、2病院とも悪化傾向にある。

#### ウ 流動比率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病院事業全体	242.1%	298.0%	315.2%	331.4%	293.2%
市民病院	209.1	268.1	284.0	294.7	263.3
木曾川市民病院	512.0	529.6	579.3	714.6	565.4

(注)算式

$$\text{流動比率 (\%)} = \text{流動資産} / \text{流動負債} \times 100$$

短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す。100%以上であることが必要であり、一般的に100%を下回るということは、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債を賄っておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。

当年度の流動比率は、市民病院では、前年度に比べ31.4ポイント悪化し263.3%である。木曾川市民病院では、前年度に比べ149.2ポイント悪化し565.4%となったが、これは流動資産が大きく減少したことによるものである。流動比率は2病院とも悪化傾向にある。

#### (9) 資金の運用状況

キャッシュ・フロー計算書を基に市民病院、木曾川市民病院の資金運用状況をみると、次のとおりである。

##### ア 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の業務活動の実施による資金の増減を表している。市民病院では、当年度純損失10億4,917万1,859円を計上し、減価償却費などにより5億4,465万7,330円の収入超過となっている。木曾川市民病院では、当年度純損失2億2,379万4,353円を計上し、未収金や長期前受金戻入などにより1億2,358万2,164円の支出超過となっている。

##### イ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減を表している。市民病院では、一般会計からの繰入金による収入などがあったものの、有形固定資産の取得による支出により6億4,355万3,796円の支出超過となっ

ている。木曾川市民病院では、一般会計からの繰入金による収入があったものの、有形固定資産の取得による支出により 371 万 4,259 円の支出超過となっている。

なお、業務活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計で求められるフリー・キャッシュ・フローは、業務活動で獲得した資金から、事業を維持するために必要な資金を差し引くことで、事業者が自由に使用できる余剰資金を表している。市民病院では、投資活動によるキャッシュ・フローの減少が業務活動によるキャッシュ・フローの増加を上回り、9,889 万 6,466 円の支出超過となっている。木曾川市民病院では、業務活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フローが減少しており、1 億 2,729 万 6,423 円の支出超過となっている。

#### ウ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、資金が不足した場合にどのように資金の調達をしたのか、資金に余裕がある場合にどの程度借入金を返済したのかを表している。市民病院では、企業債の償還及びリース債務の返済による支出により 7 億 4,074 万 5,266 円の支出超過となっている。木曾川市民病院においても同様に 7,529 万 1,055 円の支出超過となっている。

この結果、当年度における資金期末残高は、市民病院では、前年度に比べ 8 億 3,964 万 1,732 円減の 46 億 4,699 万 7,224 円、木曾川市民病院では、2 億 258 万 7,478 円減の 17 億 1,082 万 2,771 円となっている。

## む す び

以上が当年度病院事業会計決算審査の概要であるが、ここに総括的な意見を述べて本審査のむすびとする。

業務状況は、総患者数延 53 万 8,851 人で、前年度に比べ 632 人減少した。その内訳をみると、入院患者数は、延 20 万 8,096 人で前年度に比べ 229 人減少し、外来患者数は、延 33 万 755 人で前年度に比べ 403 人減少している。

当年度は、市民病院においては 11 月 18 日から健康診断等の結果により追加検査が必要となった方を対象とした検診精査外来を開設した。施設・設備面では、老朽化に対する計画的な改修・更新のため、空調設備中央監視装置更新工事や南館 A 棟無停電電源装置更新工事などを行った。また、医療機器では血管造影撮影装置や内視鏡ビデオスコープなどを更新し、医療機能の充実が図られた。木曾川市民病院においては、市民病院を始めとする地域の急性期病院から紹介された急性期治療を終えた患者の積極的な受入れなどにより医療サービスの質の向上が図られた。また、2 病院においてマイナ保険証の利用促進の一環としてデジタル庁の公募事業に参画し、マイナンバーカードを医療費受給者証として活用できるようにすることで患者サービスの向上や業務の効率化に取り組んだ。

経営成績は、市民病院では、事業収益 237 億 508 万円余（前年度比 98.6%）、事業費用 247 億 5,425 万円余（前年度比 101.6%）となり、差し引き 10 億 4,917 万円余の純損失となった。木曾川市民病院では、事業収益 22 億 6,697 万円余（前年度比 96.6%）、事業費用 24 億 9,076 万円余（前年度比 103.1%）となり、差し引き 2 億 2,379 万円余の純損失となった。この結果、病院事業全体では、12 億 7,296 万円余の純損失となり、前年度 3 億 9,563 万円余の純損失から 8 億 7,733 万円余損失が増加した。また、当年度未処理欠損金は 100 億 136 万円余に増加した。

前年度には、医療機能数値目標や経営指標に係る数値目標を掲げた「一宮市病院事業経営強化プラン」を策定しているが、経常損益については、患者数の減少や患者 1 人当たりの外来診療単価の下降などにより事業収益が減少したことや、人事院勧告に基づく給与改正による人件費の上昇や物価高騰の影響などにより事業費用が増加したことで、2 病院とも目標値と大きく乖離する結果となった。目標最終年度の令和 9 年度には経常黒字化となることを目指しているが、この目標達成に向けて、地域医療連携のさらなる強化や医療の質及び医療機能の充実を図るとともに、より一層の効率的で効果的な病院事業運営に意を用いて、健全な病院経営に尽力されたい。

最後に、市民病院は高度・急性期医療を担う地域の基幹病院として、木曾川市民病院は回復期医療を担う市民病院の後方支援病院として連携を密にし、地域の期待に応えられる病院を目指し、持続可能な質の高い医療の提供に努められることを望むものである。



一宮市病院事業会計決算に基づく  
資金不足比率審査意見



2025（令和7）年8月12日

一宮市長 中野正康様

一宮市監査委員 長谷川 伸 二

一宮市監査委員 丹 羽 達

一宮市監査委員 岡 本 将 嗣

一宮市監査委員 高 木 宏 昌

令和6年度一宮市公営企業会計（病院事業会計）決算に基づく  
資金不足比率審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により審査に付された令和6年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、次のとおりその意見を提出します。



# 令和6年度一宮市病院事業会計決算に基づく資金不足比率審査意見

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項による資金不足比率審査を一宮市監査委員監査基準に準拠して実施した。その概要及び結果は次のとおりである。

## 第1 審査の対象

令和6年度決算に基づく資金不足比率  
上記比率の算定の基礎となる事項を記載した書類

## 第2 審査の方法等

### 1 主な着眼点

総務省が作成した記載要領、チェックポイント等に基づき、次の項目を主眼として審査を実施した。

- (1) 各比率の算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されているか。
- (2) 比率の算定は適正に行われているか。

### 2 主な実施内容

審査に当たっては、審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について、決算書類その他関係書類との照合確認を行うとともに、関係職員から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

### 3 実施場所及び日程

	実施場所	日程
監査事務局による書類調査	監査事務局	2025年6月20日～ 同年7月10日
監査委員による本審査	木曾川市民病院会議室	同年7月22日

## 第3 審査の結果

審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、法令に適合し、かつ正確に作成されているものと認められた。

なお、本事業会計に資金不足額はなく、資金不足比率は算出されないため、特に指摘すべき事項はない。

会計名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	経営健全化基準
病院事業会計	—	—	—	20.0%

(注) 資金不足が発生していない場合は、資金不足比率を「—」で表示する。



# 病院事業会計決算審査資料

# 予 算 決 算

科 目	予 算 現 額 (A)		決 算 額 (B)		執行率(%) (B/A)
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
<b>市民病院収益の収入</b>	<b>23,917,715,000</b>	<b>91.3</b>	<b>23,742,035,801</b>	<b>91.3</b>	<b>99.3</b>
医 業 収 益	22,096,528,000	84.4	21,930,741,396	84.3	99.2
医 業 外 収 益	1,769,112,000	6.8	1,751,505,625	6.7	99.0
特 別 利 益	52,075,000	0.2	59,788,780	0.2	114.8
<b>木曾川市民病院収益の収入</b>	<b>2,273,572,000</b>	<b>8.7</b>	<b>2,271,640,217</b>	<b>8.7</b>	<b>99.9</b>
医 業 収 益	2,013,915,000	7.7	2,005,587,209	7.7	99.6
医 業 外 収 益	259,377,000	1.0	265,627,789	1.0	102.4
特 別 利 益	280,000	0.0	425,219	0.0	151.9
<b>収益の収入合計</b>	<b>26,191,287,000</b>	<b>100.0</b>	<b>26,013,676,018</b>	<b>100.0</b>	<b>99.3</b>
<b>市民病院資本の収入</b>	<b>678,448,000</b>	<b>92.8</b>	<b>578,895,381</b>	<b>91.7</b>	<b>85.3</b>
企 業 債	344,000,000	47.1	244,000,000	38.6	70.9
負 担 金	332,927,000	45.6	332,926,381	52.7	100.0
寄 附 金	1,000,000	0.1	1,448,000	0.2	144.8
補 助 金	521,000	0.1	521,000	0.1	100.0
<b>木曾川市民病院資本の収入</b>	<b>52,328,000</b>	<b>7.2</b>	<b>52,574,224</b>	<b>8.3</b>	<b>100.5</b>
負 担 金	52,328,000	7.2	52,327,054	8.3	100.0
補 助 金	0	0.0	71,000	0.0	—
固定資産売却代金	0	0.0	176,170	0.0	—
<b>資本の収入合計</b>	<b>730,776,000</b>	<b>100.0</b>	<b>631,469,605</b>	<b>100.0</b>	<b>86.4</b>
<b>(補てん財源)</b>					
当年度分消費税及び地方消費税資本の収支調整額			1,874,185		
過年度分損益勘定留保資金			1,413,077,412		

# 対 照 表

科 目	支		出		執行率(%) (D/C)
	予 算 現 額 (C)		決 算 額 (D)		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>市民病院収益の支出</b>	<b>25,302,608,000</b>	<b>90.7</b>	<b>24,777,906,035</b>	<b>90.9</b>	<b>97.9</b>
医 業 費 用	24,076,450,000	86.3	23,575,954,483	86.4	97.9
医 業 外 費 用	1,175,006,445	4.2	1,150,899,997	4.2	97.9
特 別 損 失	51,051,555	0.2	51,051,555	0.2	100.0
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
<b>木曾川市民病院収益の支出</b>	<b>2,583,680,000</b>	<b>9.3</b>	<b>2,494,974,704</b>	<b>9.1</b>	<b>96.6</b>
医 業 費 用	2,546,624,000	9.1	2,466,128,757	9.0	96.8
医 業 外 費 用	34,604,000	0.1	28,244,398	0.1	81.6
特 別 損 失	2,352,000	0.0	601,549	0.0	25.6
予 備 費	100,000	0.0	0	0.0	0.0
<b>収益の支出合計</b>	<b>27,886,288,000</b>	<b>100.0</b>	<b>27,272,880,739</b>	<b>100.0</b>	<b>97.8</b>
<b>市民病院資本の支出</b>	<b>1,915,808,000</b>	<b>92.8</b>	<b>1,899,154,191</b>	<b>92.8</b>	<b>99.1</b>
建 設 改 良 費	1,293,593,000	62.7	1,276,939,364	62.4	98.7
企 業 債 償 還 金	622,215,000	30.1	622,214,827	30.4	100.0
<b>木曾川市民病院資本の支出</b>	<b>148,278,000</b>	<b>7.2</b>	<b>147,267,011</b>	<b>7.2</b>	<b>99.3</b>
建 設 改 良 費	88,144,000	4.3	87,133,589	4.3	98.9
企 業 債 償 還 金	60,134,000	2.9	60,133,422	2.9	100.0
<b>資本の支出合計</b>	<b>2,064,086,000</b>	<b>100.0</b>	<b>2,046,421,202</b>	<b>100.0</b>	<b>99.1</b>

# 決 算 両 年

科 目	令和 6 年 度		令和 5 年 度		前 年 度 対 比 (%)
	金 額 (円)	構成比 (%)	金 額 (円)	構成比 (%)	
<b>市民病院収益の収入</b>	<b>23,742,035,801</b>	<b>91.3</b>	<b>24,082,750,130</b>	<b>91.1</b>	<b>98.6</b>
医 業 収 益	21,930,741,396	84.3	22,182,621,048	83.9	98.9
医 業 外 収 益	1,751,505,625	6.7	1,897,667,936	7.2	92.3
特 別 利 益	59,788,780	0.2	2,461,146	0.0	2,429.3
<b>木曾川市民病院収益の収入</b>	<b>2,271,640,217</b>	<b>8.7</b>	<b>2,351,500,602</b>	<b>8.9</b>	<b>96.6</b>
医 業 収 益	2,005,587,209	7.7	2,001,392,035	7.6	100.2
医 業 外 収 益	265,627,789	1.0	347,716,639	1.3	76.4
特 別 利 益	425,219	0.0	2,391,928	0.0	17.8
<b>収益の収入合計</b>	<b>26,013,676,018</b>	<b>100.0</b>	<b>26,434,250,732</b>	<b>100.0</b>	<b>98.4</b>
<b>市民病院資本の収入</b>	<b>578,895,381</b>	<b>91.7</b>	<b>307,022,430</b>	<b>89.0</b>	<b>188.6</b>
企 業 債	244,000,000	38.6	—	—	—
負 担 金	332,926,381	52.7	306,501,430	88.8	108.6
寄 附 金	1,448,000	0.2	0	0.0	—
補 助 金	521,000	0.1	521,000	0.2	100.0
<b>木曾川市民病院資本の収入</b>	<b>52,574,224</b>	<b>8.3</b>	<b>38,023,256</b>	<b>11.0</b>	<b>138.3</b>
負 担 金	52,327,054	8.3	38,023,256	11.0	137.6
補 助 金	71,000	0.0	—	—	—
固定資産売却代金	176,170	0.0	—	—	—
<b>資本の収入合計</b>	<b>631,469,605</b>	<b>100.0</b>	<b>345,045,686</b>	<b>100.0</b>	<b>183.0</b>
<b>(補てん財源)</b>					
当年度分消費税及び地方 消費税資本の収支調整額	1,874,185		1,218,781		
過年度分損益勘定留保資金	1,413,077,412		1,262,389,410		

# 度 比 較 表

科 目	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前 年 度 对 比 (%)
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>市民病院収益の支出</b>	<b>24,777,906,035</b>	<b>90.9</b>	<b>24,395,227,919</b>	<b>91.0</b>	<b>101.6</b>
医 業 費 用	23,575,954,483	86.4	23,285,026,074	86.8	101.2
医 業 外 費 用	1,150,899,997	4.2	1,108,622,023	4.1	103.8
特 別 損 失	51,051,555	0.2	1,579,822	0.0	3,231.5
<b>木曾川市民病院収益の支出</b>	<b>2,494,974,704</b>	<b>9.1</b>	<b>2,420,846,473</b>	<b>9.0</b>	<b>103.1</b>
医 業 費 用	2,466,128,757	9.0	2,387,202,869	8.9	103.3
医 業 外 費 用	28,244,398	0.1	30,814,746	0.1	91.7
特 別 損 失	601,549	0.0	2,828,858	0.0	21.3
<b>収 益 の 支 出 合 計</b>	<b>27,272,880,739</b>	<b>100.0</b>	<b>26,816,074,392</b>	<b>100.0</b>	<b>101.7</b>
<b>市民病院資本の支出</b>	<b>1,899,154,191</b>	<b>92.8</b>	<b>1,507,755,105</b>	<b>93.7</b>	<b>126.0</b>
建 設 改 良 費	1,276,939,364	62.4	979,481,862	60.9	130.4
企 業 債 償 還 金	622,214,827	30.4	528,273,243	32.8	117.8
<b>木曾川市民病院資本の支出</b>	<b>147,267,011</b>	<b>7.2</b>	<b>100,898,772</b>	<b>6.3</b>	<b>146.0</b>
建 設 改 良 費	87,133,589	4.3	41,810,773	2.6	208.4
企 業 債 償 還 金	60,133,422	2.9	59,087,999	3.7	101.8
<b>資 本 の 支 出 合 計</b>	<b>2,046,421,202</b>	<b>100.0</b>	<b>1,608,653,877</b>	<b>100.0</b>	<b>127.2</b>

# 比 較 損 益 計 算 書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医 業 費 用</b>	<b>25,674,969,063</b>	<b>94.2</b>	<b>25,323,342,857</b>	<b>94.5</b>	<b>101.4</b>
給 与 費	12,792,255,413	47.0	12,163,078,545	45.4	105.2
材 料 費	7,348,604,203	27.0	7,609,645,616	28.4	96.6
経 費*	3,738,767,340	13.7	3,534,857,025	13.2	105.8
減 価 償 却 費	1,675,107,904	6.1	1,905,418,486	7.1	87.9
資 産 減 耗 費	42,048,814	0.2	39,762,119	0.1	105.8
研 究 研 修 費	78,185,389	0.3	70,581,066	0.3	110.8
<b>医 業 外 費 用</b>	<b>1,520,159,748</b>	<b>5.6</b>	<b>1,458,955,783</b>	<b>5.4</b>	<b>104.2</b>
支 払 利 息	178,412,457	0.7	189,987,350	0.7	93.9
患 者 外 給 食 費	628,703	0.0	632,055	0.0	99.5
保 育 費	61,560,052	0.2	5,536,199	0.0	1,112.0
長 期 前 払 消 費 税 償 却	87,804,770	0.3	159,909,229	0.6	54.9
雑 損 失	1,191,753,766	4.4	1,102,890,950	4.1	108.1
<b>特 別 損 失</b>	<b>49,800,142</b>	<b>0.2</b>	<b>4,347,222</b>	<b>0.0</b>	<b>1,145.6</b>
過 年 度 損 失	2,856,925	0.0	4,347,222	0.0	65.7
そ の 他 特 別 損 失	46,943,217	0.2	—	—	—
<b>費 用 合 計</b>	<b>27,244,928,953</b>	<b>100.0</b>	<b>26,786,645,862</b>	<b>100.0</b>	<b>101.7</b>
<b>医 業 利 益</b>	—		—		
<b>経 常 利 益</b>	—		—		
<b>純 利 益</b>	—		—		

(注) \*印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と

# ( 総 合 )

貸 方					
科 目	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前 年 度 対 比 ( % )
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
<b>医 業 収 益</b>	<b>23,902,455,521</b>	<b>92.0</b>	<b>24,148,805,673</b>	<b>91.5</b>	<b>99.0</b>
入 院 収 益	15,900,296,739	61.2	15,906,218,531	60.3	100.0
外 来 収 益*	7,655,624,316	29.5	7,900,768,996	29.9	96.9
その他医業収益	346,534,466	1.3	341,818,146	1.3	101.4
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>2,009,306,377</b>	<b>7.7</b>	<b>2,237,352,654</b>	<b>8.5</b>	<b>89.8</b>
受 取 利 息	2,411,388	0.0	226,456	0.0	1,064.8
補 助 金	87,886,728	0.3	390,180,816	1.5	22.5
他会計繰入金	565,000	0.0	—	—	—
負担金・交付金	1,316,349,548	5.1	1,345,524,719	5.1	97.8
患者外給食収益	942,750	0.0	1,055,925	0.0	89.3
保 育 収 益	8,452,012	0.0	7,590,632	0.0	111.3
長期前受金戻入	376,601,152	1.5	378,232,833	1.4	99.6
雑 収 益	1,050,718	0.0	60,596	0.0	1,734.0
その他医業外収益	215,047,081	0.8	114,480,677	0.4	187.8
<b>特 別 利 益</b>	<b>60,200,843</b>	<b>0.2</b>	<b>4,853,074</b>	<b>0.0</b>	<b>1,240.5</b>
過 年 度 収 益	6,588,813	0.0	2,396,220	0.0	275.0
固定資産売却益	131,564	0.0	—	—	—
その他特別利益	53,480,466	0.2	2,456,854	0.0	2,176.8
<b>収 益 合 計</b>	<b>25,971,962,741</b>	<b>100.0</b>	<b>26,391,011,401</b>	<b>100.0</b>	<b>98.4</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>1,772,513,542</b>		<b>1,174,537,184</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>1,283,366,913</b>		<b>396,140,313</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>1,272,966,212</b>		<b>395,634,461</b>		

なっている。

# 比較損益計算書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>医 業 費 用</b>	<b>23,266,093,099</b>	<b>94.0</b>	<b>22,989,676,734</b>	<b>94.3</b>	<b>101.2</b>
給 与 費	11,204,403,696	45.3	10,640,761,332	43.7	105.3
材 料 費	7,103,165,488	28.7	7,352,646,221	30.2	96.6
経 費	3,272,169,659	13.2	3,104,935,612	12.7	105.4
減 価 償 却 費	1,574,022,228	6.4	1,789,425,070	7.3	88.0
資 産 減 耗 費	39,673,127	0.2	36,198,703	0.1	109.6
研 究 研 修 費	72,658,901	0.3	65,709,796	0.3	110.6
<b>医 業 外 費 用</b>	<b>1,438,957,763</b>	<b>5.8</b>	<b>1,378,750,311</b>	<b>5.7</b>	<b>104.4</b>
支 払 利 息	171,505,023	0.7	182,010,740	0.7	94.2
患 者 外 給 食 費	628,703	0.0	632,055	0.0	99.5
保 育 費	61,560,052	0.2	5,536,199	0.0	1,112.0
長 期 前 払 消 費 税 償 却	82,581,298	0.3	154,324,080	0.6	53.5
雑 損 失	1,122,682,687	4.5	1,036,247,237	4.3	108.3
<b>特 別 損 失</b>	<b>49,203,183</b>	<b>0.2</b>	<b>1,521,417</b>	<b>0.0</b>	<b>3,234.0</b>
過 年 度 損 失	2,665,106	0.0	1,521,417	0.0	175.2
そ の 他 特 別 損 失	46,538,077	0.2	—	—	—
<b>費 用 合 計</b>	<b>24,754,254,045</b>	<b>100.0</b>	<b>24,369,948,462</b>	<b>100.0</b>	<b>101.6</b>
<b>医 業 利 益</b>	—		—		
<b>経 常 利 益</b>	—		—		
<b>純 利 益</b>	—		—		

# ( 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	金 額 ( 円 )	構 成 比 ( % )	
<b>医 業 収 益</b>	<b>21,901,161,103</b>	<b>92.4</b>	<b>22,151,415,247</b>	<b>92.1</b>	<b>98.9</b>
入 院 収 益	14,457,601,415	61.0	14,474,220,610	60.2	99.9
外 来 収 益	7,138,606,445	30.1	7,372,200,373	30.7	96.8
その他医業収益	304,953,243	1.3	304,994,264	1.3	100.0
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>1,744,132,303</b>	<b>7.4</b>	<b>1,890,147,961</b>	<b>7.9</b>	<b>92.3</b>
受 取 利 息	1,918,260	0.0	164,704	0.0	1,164.7
補 助 金	77,021,888	0.3	300,102,816	1.2	25.7
負担金・交付金	1,099,082,066	4.6	1,125,761,315	4.7	97.6
患者外給食収益	942,750	0.0	1,055,925	0.0	89.3
保 育 収 益	8,452,012	0.0	7,590,632	0.0	111.3
長期前受金戻入	348,660,770	1.5	351,173,154	1.5	99.3
雑 収 益	703,305	0.0	60,315	0.0	1,166.1
その他医業外収益	207,351,252	0.9	104,239,100	0.4	198.9
<b>特 別 利 益</b>	<b>59,788,780</b>	<b>0.3</b>	<b>2,461,146</b>	<b>0.0</b>	<b>2,429.3</b>
過 年 度 収 益	6,308,314	0.0	4,292	0.0	146,978.4
その他特別利益	53,480,466	0.2	2,456,854	0.0	2,176.8
<b>収 益 合 計</b>	<b>23,705,082,186</b>	<b>100.0</b>	<b>24,044,024,354</b>	<b>100.0</b>	<b>98.6</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>1,364,931,996</b>		<b>838,261,487</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>1,059,757,456</b>		<b>326,863,837</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>1,049,171,859</b>		<b>325,924,108</b>		

# 比較損益計算書

科 目	借		方		前 年 度 対 比 ( % )
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構成比(%)	金 額 (円)	構成比(%)	
<b>医 業 費 用</b>	<b>2,408,966,294</b>	<b>96.7</b>	<b>2,333,900,733</b>	<b>96.6</b>	<b>103.2</b>
給 与 費	1,587,851,717	63.7	1,522,317,213	63.0	104.3
材 料 費	245,438,715	9.9	256,999,395	10.6	95.5
経 費	466,688,011	18.7	430,156,023	17.8	108.5
減 価 償 却 費	101,085,676	4.1	115,993,416	4.8	87.1
資 産 減 耗 費	2,375,687	0.1	3,563,416	0.1	66.7
研 究 研 修 費	5,526,488	0.2	4,871,270	0.2	113.5
<b>医 業 外 費 用</b>	<b>81,201,985</b>	<b>3.3</b>	<b>80,205,472</b>	<b>3.3</b>	<b>101.2</b>
支 払 利 息	6,907,434	0.3	7,976,610	0.3	86.6
長 期 前 払 消 費 税 償 却	5,223,472	0.2	5,585,149	0.2	93.5
雑 損 失	69,071,079	2.8	66,643,713	2.8	103.6
<b>特 別 損 失</b>	<b>596,959</b>	<b>0.0</b>	<b>2,825,805</b>	<b>0.1</b>	<b>21.1</b>
過 年 度 損 失	191,819	0.0	2,825,805	0.1	6.8
そ の 他 特 別 損 失	405,140	0.0	—	—	—
<b>費 用 合 計</b>	<b>2,490,765,238</b>	<b>100.0</b>	<b>2,416,932,010</b>	<b>100.0</b>	<b>103.1</b>
<b>医 業 利 益</b>	—		—		
<b>経 常 利 益</b>	—		—		
<b>純 利 益</b>	—		—		

# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

貸 方					
科 目	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		前 年 度 対 比 ( % )
	金 額 (円)	構 成 比 ( % )	金 額 (円)	構 成 比 ( % )	
<b>医 業 収 益</b>	<b>2,001,384,748</b>	<b>88.3</b>	<b>1,997,625,036</b>	<b>85.1</b>	<b>100.2</b>
入 院 収 益	1,442,695,324	63.6	1,431,997,921	61.0	100.7
外 来 収 益	517,108,201	22.8	528,628,273	22.5	97.8
その他医業収益	41,581,223	1.8	36,998,842	1.6	112.4
<b>医 業 外 収 益</b>	<b>265,174,074</b>	<b>11.7</b>	<b>347,204,693</b>	<b>14.8</b>	<b>76.4</b>
受 取 利 息	493,128	0.0	61,752	0.0	798.6
補 助 金	10,864,840	0.5	90,078,000	3.8	12.1
他会計繰入金	565,000	0.0	—	—	—
負担金・交付金	217,267,482	9.6	219,763,404	9.4	98.9
長期前受金戻入	27,940,382	1.2	27,059,679	1.2	103.3
雑 収 益	347,413	0.0	281	0.0	123,634.5
その他医業外収益	7,695,829	0.3	10,241,577	0.4	75.1
<b>特 別 利 益</b>	<b>412,063</b>	<b>0.0</b>	<b>2,391,928</b>	<b>0.1</b>	<b>17.2</b>
過 年 度 収 益	280,499	0.0	2,391,928	0.1	11.7
固定資産売却益	131,564	0.0	—	—	—
<b>収 益 合 計</b>	<b>2,266,970,885</b>	<b>100.0</b>	<b>2,347,221,657</b>	<b>100.0</b>	<b>96.6</b>
<b>医 業 損 失</b>	<b>407,581,546</b>		<b>336,275,697</b>		
<b>経 常 損 失</b>	<b>223,609,457</b>		<b>69,276,476</b>		
<b>純 損 失</b>	<b>223,794,353</b>		<b>69,710,353</b>		

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和6年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>12,792,442,913</b>	<b>11,067,435,116</b>	<b>100,586,722</b>	<b>1,714,504,312</b>	<b>25,674,969,063</b>	<b>94.2</b>
給与費	12,792,255,413	—	—	—	12,792,255,413	47.0
材料費	—	7,348,604,203	—	—	7,348,604,203	27.0
経費*	187,500	3,637,993,118	100,586,722	—	3,738,767,340	13.7
減価償却費	—	—	—	1,675,107,904	1,675,107,904	6.1
資産減耗費	—	2,652,406	—	39,396,408	42,048,814	0.2
研究研修費	—	78,185,389	—	—	78,185,389	0.3
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>63,711,796</b>	<b>1,368,643,182</b>	<b>87,804,770</b>	<b>1,520,159,748</b>	<b>5.6</b>
支払利息	—	—	178,412,457	—	178,412,457	0.7
患者外給食費	—	628,703	—	—	628,703	0.0
保育費	—	61,550,282	9,770	—	61,560,052	0.2
長期前払 消費税償却	—	—	—	87,804,770	87,804,770	0.3
雑損失	—	1,532,811	1,190,220,955	—	1,191,753,766	4.4
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>2,856,925</b>	<b>46,943,217</b>	<b>49,800,142</b>	<b>0.2</b>
過年度損失	—	—	2,856,925	—	2,856,925	0.0
その他特別損失	—	—	—	46,943,217	46,943,217	0.2
<b>合計</b>	<b>12,792,442,913</b>	<b>11,131,146,912</b>	<b>1,472,086,829</b>	<b>1,849,252,299</b>	<b>27,244,928,953</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比 (%)</b>	<b>47.0</b>	<b>40.9</b>	<b>5.4</b>	<b>6.8</b>	<b>100.0</b>	

(注) 1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期

2 令和6年度の市民病院の保育費には、院内保育所運営委託料が含まれている。

3 \*印の科目は市民病院と木曽川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計となっている。

## 両年度比較表（総合）

令和5年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)	
<b>12,163,270,945</b>	<b>11,147,489,892</b>	<b>69,371,035</b>	<b>1,943,210,985</b>	<b>25,323,342,857</b>	<b>94.5</b>	<b>101.4</b>
12,163,078,545	—	—	—	12,163,078,545	45.4	105.2
—	7,609,645,616	—	—	7,609,645,616	28.4	96.6
192,400	3,465,293,590	69,371,035	—	3,534,857,025	13.2	105.8
—	—	—	1,905,418,486	1,905,418,486	7.1	87.9
—	1,969,620	—	37,792,499	39,762,119	0.1	105.8
—	70,581,066	—	—	70,581,066	0.3	110.8
<b>—</b>	<b>7,007,903</b>	<b>1,292,038,651</b>	<b>159,909,229</b>	<b>1,458,955,783</b>	<b>5.4</b>	<b>104.2</b>
—	—	189,987,350	—	189,987,350	0.7	93.9
—	632,055	—	—	632,055	0.0	99.5
—	5,526,429	9,770	—	5,536,199	0.0	1,112.0
—	—	—	159,909,229	159,909,229	0.6	54.9
—	849,419	1,102,041,531	—	1,102,890,950	4.1	108.1
<b>—</b>	<b>—</b>	<b>4,347,222</b>	<b>—</b>	<b>4,347,222</b>	<b>0.0</b>	<b>1,145.6</b>
—	—	4,347,222	—	4,347,222	0.0	65.7
—	—	—	—	—	—	—
<b>12,163,270,945</b>	<b>11,154,497,795</b>	<b>1,365,756,908</b>	<b>2,103,120,214</b>	<b>26,786,645,862</b>	<b>100.0</b>	<b>101.7</b>
<b>45.4</b>	<b>41.6</b>	<b>5.1</b>	<b>7.9</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額、報酬

並びに医療事故に対する和解金及び解決金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額  
前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和6年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>11,204,591,196</b>	<b>10,360,138,774</b>	<b>90,239,943</b>	<b>1,611,123,186</b>	<b>23,266,093,099</b>	<b>94.0</b>
給与費	11,204,403,696	—	—	—	11,204,403,696	45.3
材料費	—	7,103,165,488	—	—	7,103,165,488	28.7
経費	187,500	3,181,742,216	90,239,943	—	3,272,169,659	13.2
減価償却費	—	—	—	1,574,022,228	1,574,022,228	6.4
資産減耗費	—	2,572,169	—	37,100,958	39,673,127	0.2
研究研修費	—	72,658,901	—	—	72,658,901	0.3
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>63,400,069</b>	<b>1,292,976,396</b>	<b>82,581,298</b>	<b>1,438,957,763</b>	<b>5.8</b>
支払利息	—	—	171,505,023	—	171,505,023	0.7
患者外給食費	—	628,703	—	—	628,703	0.0
保育費	—	61,550,282	9,770	—	61,560,052	0.2
長期前払 消費税償却	—	—	—	82,581,298	82,581,298	0.3
雑損失	—	1,221,084	1,121,461,603	—	1,122,682,687	4.5
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>2,665,106</b>	<b>46,538,077</b>	<b>49,203,183</b>	<b>0.2</b>
過年度損失	—	—	2,665,106	—	2,665,106	0.0
その他特別損失	—	—	—	46,538,077	46,538,077	0.2
<b>合計</b>	<b>11,204,591,196</b>	<b>10,423,538,843</b>	<b>1,385,881,445</b>	<b>1,740,242,561</b>	<b>24,754,254,045</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比 (%)</b>	<b>45.3</b>	<b>42.1</b>	<b>5.6</b>	<b>7.0</b>	<b>100.0</b>	

(注) 1 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期  
2 令和6年度の保育費には、院内保育所運営委託料が含まれている。

## 両年度比較表(市民病院)

令和5年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)	
<b>10,640,953,732</b>	<b>10,464,277,380</b>	<b>60,692,714</b>	<b>1,823,752,908</b>	<b>22,989,676,734</b>	<b>94.3</b>	<b>101.2</b>
10,640,761,332	—	—	—	10,640,761,332	43.7	105.3
—	7,352,646,221	—	—	7,352,646,221	30.2	96.6
192,400	3,044,050,498	60,692,714	—	3,104,935,612	12.7	105.4
—	—	—	1,789,425,070	1,789,425,070	7.3	88.0
—	1,870,865	—	34,327,838	36,198,703	0.1	109.6
—	65,709,796	—	—	65,709,796	0.3	110.6
—	<b>7,007,903</b>	<b>1,217,418,328</b>	<b>154,324,080</b>	<b>1,378,750,311</b>	<b>5.7</b>	<b>104.4</b>
—	—	182,010,740	—	182,010,740	0.7	94.2
—	632,055	—	—	632,055	0.0	99.5
—	5,526,429	9,770	—	5,536,199	0.0	1,112.0
—	—	—	154,324,080	154,324,080	0.6	53.5
—	849,419	1,035,397,818	—	1,036,247,237	4.3	108.3
—	—	<b>1,521,417</b>	—	<b>1,521,417</b>	<b>0.0</b>	<b>3,234.0</b>
—	—	1,521,417	—	1,521,417	0.0	175.2
—	—	—	—	—	—	—
<b>10,640,953,732</b>	<b>10,471,285,283</b>	<b>1,279,632,459</b>	<b>1,978,076,988</b>	<b>24,369,948,462</b>	<b>100.0</b>	<b>101.6</b>
<b>43.7</b>	<b>43.0</b>	<b>5.3</b>	<b>8.1</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額)、報酬

並びに医療事故に対する和解金及び解決金)、過年度損失、貸倒引当金繰入額  
前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

## 収益的支出科目別及び経費別

年度別 経費 科目	令和6年度					
	人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合計(円)	構成比 (%)
<b>医業費用</b>	<b>1,587,851,717</b>	<b>707,386,672</b>	<b>10,346,779</b>	<b>103,381,126</b>	<b>2,408,966,294</b>	<b>96.7</b>
給与費	1,587,851,717	—	—	—	1,587,851,717	63.7
材料費	—	245,438,715	—	—	245,438,715	9.9
経費	—	456,341,232	10,346,779	—	466,688,011	18.7
減価償却費	—	—	—	101,085,676	101,085,676	4.1
資産減耗費	—	80,237	—	2,295,450	2,375,687	0.1
研究研修費	—	5,526,488	—	—	5,526,488	0.2
<b>医業外費用</b>	<b>—</b>	<b>311,727</b>	<b>75,666,786</b>	<b>5,223,472</b>	<b>81,201,985</b>	<b>3.3</b>
支払利息	—	—	6,907,434	—	6,907,434	0.3
長期前払 消費税償却	—	—	—	5,223,472	5,223,472	0.2
雑損失	—	311,727	68,759,352	—	69,071,079	2.8
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>191,819</b>	<b>405,140</b>	<b>596,959</b>	<b>0.0</b>
過年度損失	—	—	191,819	—	191,819	0.0
その他特別損失	—	—	—	405,140	405,140	0.0
<b>合計</b>	<b>1,587,851,717</b>	<b>707,698,399</b>	<b>86,205,384</b>	<b>109,009,738</b>	<b>2,490,765,238</b>	<b>100.0</b>
<b>構成比 (%)</b>	<b>63.7</b>	<b>28.4</b>	<b>3.5</b>	<b>4.4</b>	<b>100.0</b>	

(注) 経費内訳 人件費……給与費(給料、手当、法定福利費、退職給付費、賞与引当金繰入額、法定福利費引  
物件費……人件費、その他の経費及び留保資金以外の費用  
その他……保険料、諸会費、負担金補助及び交付金、支払利息、雑損失(消費税関係雑損失)、  
留保資金…減価償却費、資産減耗費(たな卸資産減耗費及び撤去に要する費用を除く)、長期

## 両年度比較表（木曾川市民病院）

令和5年度						前年度 対 比 (%)
人件費(円)	物件費(円)	その他(円)	留保資金(円)	合 計 (円)	構成比 (%)	
<b>1,522,317,213</b>	<b>683,447,122</b>	<b>8,678,321</b>	<b>119,458,077</b>	<b>2,333,900,733</b>	<b>96.6</b>	<b>103.2</b>
1,522,317,213	—	—	—	1,522,317,213	63.0	104.3
—	256,999,395	—	—	256,999,395	10.6	95.5
—	421,477,702	8,678,321	—	430,156,023	17.8	108.5
—	—	—	115,993,416	115,993,416	4.8	87.1
—	98,755	—	3,464,661	3,563,416	0.1	66.7
—	4,871,270	—	—	4,871,270	0.2	113.5
—	—	<b>74,620,323</b>	<b>5,585,149</b>	<b>80,205,472</b>	<b>3.3</b>	<b>101.2</b>
—	—	7,976,610	—	7,976,610	0.3	86.6
—	—	—	5,585,149	5,585,149	0.2	93.5
—	—	66,643,713	—	66,643,713	2.8	103.6
—	—	<b>2,825,805</b>	—	<b>2,825,805</b>	<b>0.1</b>	<b>21.1</b>
—	—	2,825,805	—	2,825,805	0.1	6.8
—	—	—	—	—	—	—
<b>1,522,317,213</b>	<b>683,447,122</b>	<b>86,124,449</b>	<b>125,043,226</b>	<b>2,416,932,010</b>	<b>100.0</b>	<b>103.1</b>
<b>63.0</b>	<b>28.3</b>	<b>3.6</b>	<b>5.2</b>	<b>100.0</b>		

当金繰入額)

過年度損失、貸倒引当金繰入額

前払消費税償却、固定資産売却損、その他特別損失

# 比 較 貸 借 対 照 表

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 資 産</b>	<b>18,795,199,010</b>	<b>63.2</b>	<b>19,402,815,850</b>	<b>61.9</b>	<b>96.9</b>
土 地	1,335,783,294	4.5	1,295,606,294	4.1	103.1
建 物	10,224,607,277	34.4	10,622,866,089	33.9	96.3
建物付属設備	3,547,253,941	11.9	3,785,217,732	12.1	93.7
構 築 物	228,822,060	0.8	242,137,260	0.8	94.5
器械及び備品	2,268,930,231	7.6	2,101,834,492	6.7	107.9
車 両 運 搬 具	25,793,813	0.1	22,047,386	0.1	117.0
リ ー ス 資 産	849,464,487	2.9	1,045,629,808	3.3	81.2
その他有形固定資産	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
電 話 加 入 権	2,219,027	0.0	2,219,027	0.0	100.0
出 資 金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷 金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	257,049,296	0.9	240,406,155	0.8	106.9
貸倒懸念債権	44,130,556	0.1	6,003,467	0.0	735.1
貸 倒 引 当 金	△ 30,704,846	△ 0.1	△ 3,001,734	0.0	1,022.9
<b>流 動 資 産</b>	<b>10,923,266,949</b>	<b>36.8</b>	<b>11,938,778,541</b>	<b>38.1</b>	<b>91.5</b>
現 金 預 金	6,357,819,995	21.4	7,400,049,205	23.6	85.9
未 収 金 *	4,309,983,096	14.5	4,329,900,260	13.8	99.5
貸 倒 引 当 金	△ 1,979,456	0.0	△ 17,922,494	△ 0.1	11.0
貯 蔵 品	256,055,685	0.9	221,146,841	0.7	115.8
前 払 費 用	1,352,629	0.0	5,604,729	0.0	24.1
前 払 金	35,000	0.0	—	—	—
<b>資 産 合 計</b>	<b>29,718,465,959</b>	<b>100.0</b>	<b>31,341,594,391</b>	<b>100.0</b>	<b>94.8</b>

(注) 1 令和5年度の固定資産における貸倒懸念債権の科目名は、長期未収金である。

2 \*印の科目は市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取引が相殺消去され、純計と

# ( 総 合 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	令 和 5 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>16,013,398,568</b>	<b>53.9</b>	<b>16,446,534,048</b>	<b>52.5</b>	<b>97.4</b>
企 業 債	10,055,662,733	33.8	10,521,877,901	33.6	95.6
リ ー ス 債 務	537,729,627	1.8	570,350,254	1.8	94.3
退職給付引当金	5,420,006,208	18.2	5,354,305,893	17.1	101.2
<b>流 動 負 債</b>	<b>3,725,296,989</b>	<b>12.5</b>	<b>3,602,557,746</b>	<b>11.5</b>	<b>103.4</b>
企 業 債	710,215,168	2.4	682,348,249	2.2	104.1
リ ー ス 債 務	239,189,017	0.8	354,972,958	1.1	67.4
未 払 金 *	1,834,724,403	6.2	1,677,843,811	5.4	109.4
預 り 金	92,550,975	0.3	92,271,929	0.3	100.3
賞 与 引 当 金	718,589,525	2.4	673,991,346	2.2	106.6
法定福利費引当金	130,027,901	0.4	121,129,453	0.4	107.3
<b>繰 延 収 益</b>	<b>753,707,642</b>	<b>2.5</b>	<b>793,473,625</b>	<b>2.5</b>	<b>95.0</b>
長 期 前 受 金	4,319,463,392	14.5	3,957,335,857	12.6	109.2
収 益 化 累 計 額	△ 3,565,755,750	△ 12.0	△ 3,163,862,232	△ 10.1	112.7
<b>資 本 金</b>	<b>19,188,348,623</b>	<b>64.6</b>	<b>19,188,348,623</b>	<b>61.2</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	19,188,348,623	64.6	19,188,348,623	61.2	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 9,962,285,863</b>	<b>△ 33.5</b>	<b>△ 8,689,319,651</b>	<b>△ 27.7</b>	<b>114.6</b>
資 本 剰 余 金	39,083,874	0.1	39,083,874	0.1	100.0
利 益 剰 余 金	△ 10,001,369,737	△ 33.7	△ 8,728,403,525	△ 27.8	114.6
(当年度純利益・△純損失)	(△ 1,272,966,212)		(△ 395,634,461)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>29,718,465,959</b>	<b>100.0</b>	<b>31,341,594,391</b>	<b>100.0</b>	<b>94.8</b>

なっている。

# 比 較 貸 借 対 照 表

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 資 産</b>	<b>17,812,520,624</b>	<b>66.8</b>	<b>18,385,614,989</b>	<b>65.5</b>	<b>96.9</b>
土 地	1,322,438,344	5.0	1,282,261,344	4.6	103.1
建 物	9,621,498,647	36.1	9,978,020,414	35.5	96.4
建物付属設備	3,400,003,693	12.8	3,649,006,225	13.0	93.2
構 築 物	213,987,475	0.8	226,071,260	0.8	94.7
器械及び備品	2,095,789,593	7.9	1,945,488,040	6.9	107.7
車 両 運 搬 具	19,437,674	0.1	18,005,470	0.1	108.0
リ ー ス 資 産	841,456,727	3.2	1,013,208,485	3.6	83.0
その他有形固定資産	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
電 話 加 入 権	1,906,200	0.0	1,906,200	0.0	100.0
出 資 金	620,000	0.0	620,000	0.0	100.0
敷 金	11,186,000	0.0	11,186,000	0.0	100.0
長期前払消費税	242,450,362	0.9	227,060,180	0.8	106.8
貸倒懸念債権	40,683,205	0.2	5,474,994	0.0	743.1
貸 倒 引 当 金	△ 28,981,170	△ 0.1	△ 2,737,497	0.0	1,058.7
<b>流 動 資 産</b>	<b>8,847,166,040</b>	<b>33.2</b>	<b>9,698,324,887</b>	<b>34.5</b>	<b>91.2</b>
現 金 預 金	4,646,997,224	17.4	5,486,638,956	19.5	84.7
未 収 金	3,950,715,637	14.8	4,008,482,573	14.3	98.6
貸 倒 引 当 金	△ 1,843,921	0.0	△ 17,098,279	△ 0.1	10.8
貯 蔵 品	249,944,471	0.9	214,696,908	0.8	116.4
前 払 費 用	1,352,629	0.0	5,604,729	0.0	24.1
<b>資 産 合 計</b>	<b>26,659,686,664</b>	<b>100.0</b>	<b>28,083,939,876</b>	<b>100.0</b>	<b>94.9</b>

(注) 令和5年度の固定資産における貸倒懸念債権の科目名は、長期未収金である。

# ( 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	令 和 5 年 度 金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>14,915,075,968</b>	<b>55.9</b>	<b>15,294,910,617</b>	<b>54.5</b>	<b>97.5</b>
企 業 債	9,795,567,695	36.7	10,200,582,197	36.3	96.0
リ ー ス 債 務	537,729,627	2.0	567,401,381	2.0	94.8
退 職 給 付 引 当 金	4,581,778,646	17.2	4,526,927,039	16.1	101.2
<b>流 動 負 債</b>	<b>3,360,205,301</b>	<b>12.6</b>	<b>3,291,228,350</b>	<b>11.7</b>	<b>102.1</b>
企 業 債	649,014,502	2.4	622,214,827	2.2	104.3
リ ー ス 債 務	236,240,144	0.9	340,791,019	1.2	69.3
未 払 金	1,656,410,816	6.2	1,559,672,268	5.6	106.2
預 り 金	81,289,791	0.3	82,429,561	0.3	98.6
賞 与 引 当 金	623,849,560	2.3	581,588,478	2.1	107.3
法 定 福 利 費 引 当 金	113,400,488	0.4	104,532,197	0.4	108.5
<b>繰 延 収 益</b>	<b>519,565,823</b>	<b>1.9</b>	<b>583,789,478</b>	<b>2.1</b>	<b>89.0</b>
長 期 前 受 金	3,811,842,455	14.3	3,502,112,974	12.5	108.8
収 益 化 累 計 額	△ 3,292,276,632	△ 12.3	△ 2,918,323,496	△ 10.4	112.8
<b>資 本 金</b>	<b>15,401,729,823</b>	<b>57.8</b>	<b>15,401,729,823</b>	<b>54.8</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	15,401,729,823	57.8	15,401,729,823	54.8	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 7,536,890,251</b>	<b>△ 28.3</b>	<b>△ 6,487,718,392</b>	<b>△ 23.1</b>	<b>116.2</b>
資 本 剰 余 金	30,043,874	0.1	30,043,874	0.1	100.0
利 益 剰 余 金	△ 7,566,934,125	△ 28.4	△ 6,517,762,266	△ 23.2	116.1
(当年度純利益・△純損失)	(△ 1,049,171,859)		(△ 325,924,108)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>26,659,686,664</b>	<b>100.0</b>	<b>28,083,939,876</b>	<b>100.0</b>	<b>94.9</b>

# 比 較 貸 借 対 照 表

科 目	借		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 資 産</b>	<b>982,678,386</b>	<b>32.1</b>	<b>1,017,200,861</b>	<b>31.2</b>	<b>96.6</b>
土 地	13,344,950	0.4	13,344,950	0.4	100.0
建 物	603,108,630	19.7	644,845,675	19.8	93.5
建物付属設備	147,250,248	4.8	136,211,507	4.2	108.1
構 築 物	14,834,585	0.5	16,066,000	0.5	92.3
器械及び備品	173,140,638	5.7	156,346,452	4.8	110.7
車両運搬具	6,356,139	0.2	4,041,916	0.1	157.3
リース資産	8,007,760	0.3	32,421,323	1.0	24.7
電話加入権	312,827	0.0	312,827	0.0	100.0
長期前払消費税	14,598,934	0.5	13,345,975	0.4	109.4
貸倒懸念債権	3,447,351	0.1	528,473	0.0	652.3
貸倒引当金	△ 1,723,676	△ 0.1	△ 264,237	0.0	652.3
<b>流 動 資 産</b>	<b>2,078,668,472</b>	<b>67.9</b>	<b>2,242,990,129</b>	<b>68.8</b>	<b>92.7</b>
現金預金	1,710,822,771	55.9	1,913,410,249	58.7	89.4
未 収 金	361,835,022	11.8	323,954,162	9.9	111.7
貸倒引当金	△ 135,535	0.0	△ 824,215	0.0	16.4
貯 蔵 品	6,111,214	0.2	6,449,933	0.2	94.7
前 払 金	35,000	0.0	—	—	—
<b>資 産 合 計</b>	<b>3,061,346,858</b>	<b>100.0</b>	<b>3,260,190,990</b>	<b>100.0</b>	<b>93.9</b>

(注) 令和5年度の固定資産における貸倒懸念債権の科目名は、長期未収金である。

# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

科 目	貸		方		前 年 度 対 比 (%)
	令 和 6 年 度		令 和 5 年 度		
	金 額 (円)	構 成 比 (%)	金 額 (円)	構 成 比 (%)	
<b>固 定 負 債</b>	<b>1,098,322,600</b>	<b>35.9</b>	<b>1,151,623,431</b>	<b>35.3</b>	<b>95.4</b>
企 業 債	260,095,038	8.5	321,295,704	9.9	81.0
リ ー ス 債 務	—	—	2,948,873	0.1	—
退 職 給 付 引 当 金	838,227,562	27.4	827,378,854	25.4	101.3
<b>流 動 負 債</b>	<b>367,659,251</b>	<b>12.0</b>	<b>313,865,871</b>	<b>9.6</b>	<b>117.1</b>
企 業 債	61,200,666	2.0	60,133,422	1.8	101.8
リ ー ス 債 務	2,948,873	0.1	14,181,939	0.4	20.8
未 払 金	180,881,150	5.9	120,708,018	3.7	149.9
預 り 金	11,261,184	0.4	9,842,368	0.3	114.4
賞 与 引 当 金	94,739,965	3.1	92,402,868	2.8	102.5
法 定 福 利 費 引 当 金	16,627,413	0.5	16,597,256	0.5	100.2
<b>繰 延 収 益</b>	<b>234,141,819</b>	<b>7.6</b>	<b>209,684,147</b>	<b>6.4</b>	<b>111.7</b>
長 期 前 受 金	507,620,937	16.6	455,222,883	14.0	111.5
収 益 化 累 計 額	△ 273,479,118	△ 8.9	△ 245,538,736	△ 7.5	111.4
<b>資 本 金</b>	<b>3,786,618,800</b>	<b>123.7</b>	<b>3,786,618,800</b>	<b>116.1</b>	<b>100.0</b>
自 己 資 本 金	3,786,618,800	123.7	3,786,618,800	116.1	100.0
<b>剰 余 金</b>	<b>△ 2,425,395,612</b>	<b>△ 79.2</b>	<b>△ 2,201,601,259</b>	<b>△ 67.5</b>	<b>110.2</b>
資 本 剰 余 金	9,040,000	0.3	9,040,000	0.3	100.0
利 益 剰 余 金	△ 2,434,435,612	△ 79.5	△ 2,210,641,259	△ 67.8	110.1
(当年度純利益・△純損失)	(△ 223,794,353)		(△ 69,710,353)		
<b>負 債 ・ 資 本 合 計</b>	<b>3,061,346,858</b>	<b>100.0</b>	<b>3,260,190,990</b>	<b>100.0</b>	<b>93.9</b>

# 比較財務分析表

区 分		令和6年度	令和5年度	増・減
財      分	稼働病床利用率 (%)	78.7	78.6	0.1
	自己資本構成比率 (%) *	33.6	36.0	△ 2.4
	固定資産対長期資本比率 (%)	72.3	69.9	2.4
	流動比率 (%) *	293.2	331.4	△ 38.2
	総収益対総費用比率 (%) *	95.3	98.5	△ 3.2
	医業収益対医業費用比率 (%) *	93.1	95.4	△ 2.3
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	52.5	38.5	14.0
析   に 対 す る 比 率	医業収益に対する比率 企業債元金償還金 (%) *	2.9	2.4	0.5
	企業債利息 (%) *	0.7	0.8	△ 0.1
	企業債元利償還金 (%) *	3.6	3.2	0.4
	職員給与費 (%) *	53.5	50.4	3.1

(注) \*印の付された項目の算出に当たっては、市民病院と木曾川市民病院との間で行われた内部取

## ( 総 合 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ <p style="text-align: center;">( 稼 働 病 床 数 )</p>	
$\frac{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}}{\text{負債・資本合計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金+剰余金+評価差額等+固定負債+繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達に資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

引が相殺消去された数値を用いた。

# 比較財務分析表

区 分		令和6年度	令和5年度	増・減
財          分          析	稼働病床利用率 (%)	77.2	77.1	0.1
	稼働一般病床利用率 (%)	79.0	78.5	0.5
	稼働結核・感染症病床利用率 (%)	34.7	42.4	△ 7.7
	自己資本構成比率 (%)	31.4	33.8	△ 2.4
	固定資産対長期資本比率 (%)	76.5	74.2	2.3
	流動比率 (%)	263.3	294.7	△ 31.4
	総収益対総費用比率 (%)	95.8	98.7	△ 2.9
	医業収益対医業費用比率 (%)	94.1	96.4	△ 2.3
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	50.8	36.7	14.1
医業収益に対する比率	企業債元金償還金 (%)	2.8	2.4	0.4
医業収益に対する比率	企業債利息 (%)	0.8	0.8	0.0
医業収益に対する比率	企業債元利償還金 (%)	3.6	3.2	0.4
医業収益に対する比率	職員給与費 (%)	51.2	48.0	3.2

# ( 市 民 病 院 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ <p>( 稼 働 病 床 数 )</p>	
$\frac{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}}{\text{負 債 ・ 資 本 合 計}} \times 100$	<p>総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。</p>
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金+剰余金+評価差額等+固定負債+繰延収益}} \times 100$	<p>固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。</p>
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	<p>1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。</p>
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	<p>業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。</p>
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$	<p>企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。</p>
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	

# 比較財務分析表

区 分		令和6年度	令和5年度	増 ・ 減
財          分          析	稼働病床利用率 (%)	85.7	85.7	0.0
	稼働一般病床利用率 (%)	80.6	80.8	△ 0.2
	稼働療養病床利用率 (%)	94.9	94.7	0.2
	自己資本構成比率 (%)	52.1	55.0	△ 2.9
	固定資産対長期資本比率 (%)	36.5	34.5	2.0
	流動比率 (%)	565.4	714.6	△ 149.2
	総収益対総費用比率 (%)	91.0	97.1	△ 6.1
	医業収益対医業費用比率 (%)	83.1	85.6	△ 2.5
	企業債元金償還金対減価償却額比率 (%)	82.2	66.4	15.8
医 業 収 益 に 対 す る 比 率	企業債元金償還金 (%)	3.0	3.0	0.0
	企業債利息 (%)	0.3	0.4	△ 0.1
	企業債元利償還金 (%)	3.3	3.4	△ 0.1
	職員給与費 (%)	79.3	76.2	3.1

# ( 木 曾 川 市 民 病 院 )

算 式	説 明
$\frac{\text{年 延 入 院 患 者 数}}{\text{年 延 病 床 数}} \times 100$ ( 稼 働 病 床 数 )	
$\frac{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}}{\text{負 債 ・ 資 本 合 計}} \times 100$	総資本と自己資本との関係を示すもので、自己資本構成比率が大きいほど経営の安全性は高いといえる。
$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資本金+剰余金+評価差額等+固定負債+繰延収益}} \times 100$	固定資産の調達が資本と長期的な負債の範囲内で行われるべき立場から100%以下であるのが正常で、100%を超える場合は固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。
$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには200%以上あることが理想とされている。
$\frac{\text{病 院 事 業 収 益}}{\text{病 院 事 業 費 用}} \times 100$	
$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$	業務活動によってもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を比較して業務活動成績を示すもので、これによって経営の良否を判断するものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$	企業債償還額とその主要償還財源である減価償却額を比較したものである。
$\frac{\text{企 業 債 元 金 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	
$\frac{\text{職 員 給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	